

聖所のテーマ

『ヘブライ人への手紙』



安息日学校の目標

- 学 ぼう 今日も命のみ言葉を
- 祈 ろ う 友なるイエスに
- 温めよう 主にある家族の交わりを
- 伝えよう 救いの喜びを
- 献げよう 魂の救いのために



上記の目標をもとに、各教会の必要に合う安息日学校の目標を立ててください。

序 言

「天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す」(詩19:1)。確かに、ある程度まではそのように言えます。もろもろの天は語るべき物語を持っています。夜空に輝く星々を眺めて、神の力と偉大さに圧倒されないクリスマスチャンはいないでしょう。

しかし、聖書は天が啓示しないものを啓示しています。星々に書かれていないことが神の御言葉に書かれています。聖書は宇宙船や天体望遠鏡が行けないところまで私たちを連れて行ってくれます。たとえば、今期の研究テーマである『ヘブライ人への手紙』は、いかに有能な天体物理学者や天文学者でも解明することのできない神秘に満ちた宇宙への窓を提供してくれます。

『ヘブライ人への手紙』を読みながら、これらのページに明示されている二つの真理に特に注目してください。一つは天の聖所におけるキリストの働きであり、もう一つは地上の神の民にとってのこの働きの重要性です。これらは私たちアドベンチストが大胆に世界に宣べ伝えてきた真理です。この手紙には私たちの聖所のメッセージの中心となる要素が含まれています。

『ヘブライ人への手紙』は初めから終わりまでイエスに関する書であり、イエスに関する、より完全で明らかな啓示です。これが今期の研究の基本的な姿勢です。私たちはこの書に現れるイエスに目を注ぎます。「われらの王、イエス」「われらの大祭司、イエス」「われらの保証、イエス」「われらの犠牲・救い、イエス」——このような主題のもとで、私たちはこの手紙の主題である信仰と従順について学びます。

著者：エクハルト・ミューラー
(世界総会聖書研究所副所長、新約学)

目 次

(聖所のテーマ：『ヘブライ人への手紙』)

序 言	2
第1課 イエスと『ヘブライ人への手紙』	7月 5 日 ... 4
第2課 われらの王、イエス	7月12日 ... 12
第3課 われらの兄弟、イエス	7月19日 ... 20
第4課 高く、優れたお方、イエス	7月26日 ... 28
第5課 われらの大祭司、イエス	8月 2 日 ... 36
第6課 『ヘブライ人への手紙』における聖所の言葉	8月 9 日 ... 44
第7課 イエスと契約	8月16日 ... 52
第8課 イエスと聖所	8月23日 ... 60
第9課 イエスの働きと聖所	8月30日 ... 68
第10課 われらの犠牲・救い、イエス	9月 6 日 ... 76
第11課 われらの保証、イエス	9月13日 ... 84
第12課 イエスとクリスチャンの歩み	9月20日 ... 92
第13課 イエスと私たちの将来	9月27日 ... 100

今期のテキストの翻訳は教団翻訳部、リライト・適用・ミニガイドは安居益也牧師、校閲・校正は出版編集部、最終校閲を安息日学校協力牧師(板東洋三郎牧師、堀内一誠牧師、金田孝雄牧師)並びに教団安息日学校部が担当しました。口語訳聖書、新共同訳聖書からの聖句引用に関しては、日本聖書協会の承認を受けております。



第1課

7月5日

イエスと『ヘブライ人への手紙』

●暗唱聖句●

「イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変ることがない」
(ヘブル 13 : 8、口語訳)

「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です」
(ヘブライ 13 : 8、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

6月28日

中心思想 『ヘブライ人への手紙』は、信仰から離れるように誘惑を受けている忠実な信徒を守る目的で書かれました。いつの時代にも同じ誘惑を受けなかったクリスチャンがいたでしょうか。ここに、現代の私たちに対する、この手紙の意義があります。

『ヘブライ人への手紙』は手紙よりも説教に近いもので、^う倦み疲れた新約時代の信者の心をイエスに、また地上と天上におけるイエスの働きに向けさせています。この書はイエスのさまざまな働きを啓示していますが、それらはどれも私たちが彼によって与えられている大いなる救いを理解する上で助けになります。主はこれらの働きを通して各時代の御自分の民に、単純ではありますが、きわめて重要なメッセージを与えておられます。それは、あきらめてはならない！ということです。

今週は、啓示された真理の源である『ヘブライ人への手紙』について概観します。

今週の研究 『ヘブライ人への手紙』の著者は誰か、誰のために書かれたのか、どんな問題が扱われているか、現代に生きる私たちとの類似点は何か、救いの計画について何を教えているかなどを研究しましょう。

日曜日

差出人と受取人

6月29日

NOTE

『ヘブライ人への手紙』の初めの数節を『ローマの信徒への手紙』や『コリントの信徒への手紙』、あるいは『ガラテヤの信徒への手紙』の初めの数節と比べてみると、一つの興味深い事実に気づきます。これらの手紙と異なり、『ヘブライ人への手紙』の著者は手紙の冒頭、あるいは本文中のどこにも自分の名前を記していません。いくつかの証拠はパウロをこの手紙の著者としています。エレン・ホワイトもパウロが書いたと述べています。この点について、今期の研究は彼女の見解にそって進められます。

もう一つの疑問は、著者がだれに宛てて書いたのかということです。この手紙がだれに宛てて書かれたのかを知ることは、単なる歴史上の関心を越えた問題です。なぜなら、この手紙の受取人を知ることはこの手紙の主要な目的を理解する助けになるからです。この手紙は旧約聖書とその歴史、また聖所に重点を置いています。著者の書き方は、読者が旧約聖書の歴史と聖所についてある程度の知識を持っていることを暗示します。

問1 次の聖句は旧約の歴史、神学などついてどんなことを明らかにしていますか。

ヘブ1:1 _____

ヘブ1:5 _____

ヘブ5:6 _____

ヘブ7:1 _____

ヘブ9:1 _____

ヘブ10:1 ~ 4 _____

話題が聖所の制度、祭司制、ヘブライ人の歴史、ヘブライ語聖書（旧約についての相当な知識が要求された）に集中していることから、学者によって一般的に受け入れられているように、この手紙の受取人がユダヤ人クリスチャンであったという仮説が有力となります。

パウロは明らかに聖書を知っている人たちに勧告の言葉を書き送っていました。彼は聖書の知識だけで救われると考えていた人たちにどんなメッセージを伝えようとしていたのでしょうか。

NOTE

「ましてわたしたちは、これほど大きな救いに対してむとんちゃくでいて、どうして罰を逃れることができましょう。この救いは、主が最初に語られ、それを聞いた人々によってわたしたちに確かなものとして示され」(ヘブ2:3)。

昨日の研究では、パウロが(おそらく)ユダヤ人クリスチャンに宛てて書いたことを学びました。次の問題は、パウロが彼らに何を言おうとしたのか、なぜこの手紙を書いたのか、ということです。

答えは、これらの人たちがキリスト教から離れてユダヤ教に逆戻りする危険の中にあったということです。彼らはキリスト再臨に対する信仰を失いつつありました(彼らはキリストがすでに来られたと考えていました)。そして、大いなる福音の真理からそれてしまう危険がありました。よくあることではないでしょうか。

問2 次の各聖句にはどんな警告と勧告が述べられていますか。それらに共通することは何ですか。

ヘブ2:1 ~ 4 _____

ヘブ3:7 ~ 4:13 _____

ヘブ5:11 ~ 6:8 _____

ヘブ10:26 ~ 39 _____

ヘブ12:1 ~ 29 _____

ヘブ13:1 ~ 17 _____

これらの警告と訓戒は、彼らが次のような危険の中にあったことを表しています。(1) 救いを拒み、捨てる。(2) 健全な新約の教えからそれる。(3) 不信仰と不従順によって神の安息を失う。(4) 神を忘れて、故意に罪を犯す。(5) 不道德な生活に陥る。彼らの霊的倦怠感が永遠の運命を脅かしていました。

「霊的ヘブライ人」である私たちセブンスデー・アドベンチストは、長くイエスの再臨を待ち望んでいます。パウロが初期の「アドベンチスト」に与えているこれらの警告に注目してください。どんな意味で、私たちも今日、彼らと同じ危険に直面していると言えますか。

火曜日

イエスの栄光の輝き

7月1日

「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました」(ヘブ1:1、2)。

NOTE

著者によれば、イエスと共に新しい時代(“終わりの時代”)が始まりました。手紙の冒頭において、イエスのさまざまな役割が述べられています。

問3 ヘブライ1:1～4を読んでください。これらの聖句において、パウロはイエスのどんな役割に言及していますか。

これらの聖句の中で、強調点が変化していることに注目してください。1、2節では父なる神が関心の中心ですが、2節の半ばからは、焦点がイエスとその御業へと移行しています。順序にも注目してください。イエスは創造者であり、保持者ですが(2、3節)すぐに救い主とされます。

問4 これら4節の中のどの言葉が十字架に言及していますか。それらはどんな希望と約束について述べていますか。

『ヘブライ人への手紙』は創造主としてのイエスに始まり、すぐに救い主としてのイエスの役割へと移行しています。しかし、3節の終わりに書かれているように、それはすぐに、この手紙の中心的な要素である天の大祭司としての役割と結びつけられます。このように、創造から、この手紙の本質である、私たちのためのイエス・キリストの働きと奉仕までが、ほとんど一気に(ギリシア語では、1～4節は一つの文章)語られています。

『ヘブライ人への手紙』の最初の4節をあなた自身の言葉に置き換えてください。

NOTE

問5 イエスの名前は1章の最初の4節には出てきません。対照的に、イエスがどのようなお方で、何をなし、いま何をしておられるかが手紙全体のテーマとして現れます。次の各聖句の後に、イエスに与えられている名前と役割を書いてください。

ヘブ 1 : 5 ~ 10 _____

ヘブ 2 : 10、17 _____

ヘブ 6 : 20、7 : 22 _____

ヘブ 9 : 15 _____

ヘブ 12 : 2、13 : 20 _____

イエスはさまざまな方法で描写されています。彼は御子、キリスト、救いの君、保証、仲保者、羊飼、大祭司、信仰の創始者・完成者……です。

ここから、ひとつの非常に積極的な姿が浮かび上がります。イエスは神であるにもかかわらず、人間の方に向かわれました。彼は私たちの救いを確かなものとされました。彼は私たちの仲保者として奉仕されます。彼は私たちを最終的な目標へと導かれるお方です。

「キリストのうちに包含されている賜物以上に大きな賜物は人間に与えられることはない。……無限の価値を持った救いの宝を拒むことは、魂の永遠の滅びを意味する。神への無関心と神の賜物を無視することの危険は、救いの偉大さによって測られる。神は全能の力の限りを尽くされた。……神は罪と反逆に満ちた人類を救うために、慈愛と憐れみ、同情と愛のうちに御自分の品性を啓示された。神は救いの計画に備えるために、御自分にできるあらゆることを実行された。もし罪人が神の慈愛の現れに無関心でいるなら、もし罪人がこれほど大いなる救いを無視するなら、……彼のかたくなな心を動かすために何ができるだろうか」(『天上で』 37 ページ)。

キリストのさまざまな称号と名称に注目してください。最もあなたの心を動かすものはどれですか。それらを総合すると、イエスとイエスの救いに関してどんなことがわかりますか。

木曜日

「偉大な大祭司」

7月3日

「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭^あわれたのです」(ヘブ4:15)。

NOTE

問6 ヘブライ4:14～16と10:19～23はほとんど同じ言い回しになっています。それらは私たちにどんな勧告を与えていますか。これらの勧告に従うべき理由としてどんなことをあげていますか。

ヘブライ4:14、16には次のようにあります。(1)公に言い表している信仰をしっかりと保つ。(2)大胆に恵みの座に近づく。同10:22、23では、同じ勧告が逆になっています。(1)真心から神に近づく。(2)公に言い表した希望をしっかりと保つ。

どちらも、言おうとしていることは同じです。つまり、キリストに対するあなたの信仰をしっかりと保ちなさい、ということです。

これらの言葉は現代の私たちにとっても非常に重要です。イエスは私たちのために死なれました。十字架は歴史と私たちの運命の転換点です。イエスは^あ大祭司として、私たちのために天で執り成しておられます。それゆえ、私たちには確信と保証があります。なぜなら、罪の誘惑がどのようなものであるかを実際に知っているお方が私たちのために天におられるからです(ヘブ4:15参照)。天の聖所への道、神の御座への道は今、開かれています！神は私たちの父、私たちは神の子です。神は私たちを御自分の子として扱ってくださいます(ヘブ12:7～9)。イエスの犠牲は一度限りのものであって、すべての人にとって十分なものです。私たちはそれを受け入れるだけでよいのです。

ヘブライ4:15を瞑想してください。私たちの天の大祭司は「わたしたちの弱さに同情される」お方です。このことはあなた個人にとって何を意味しますか。この真理はあなたにどんな希望を与えてくれますか。

NOTE

いったんイエスを信じて改宗したユダヤ人クリスチャンの中から背信していく人々が出てきた状況を心配したパウロは、イエス・キリストの生涯と身代わりの死と天における大祭司の働きを指し示します。これこそが、彼らに、後退するのではなく、信仰と勇気と確信をもって前進する力を与えるものだということを、彼は知っていたからです。

「キリストの人性に関する誤解を招きやすいあらゆる議論を避けなさい。キリストの人性を扱う場合には、努めて断言を慎む必要がある。あなたの言葉が示されたこと以上のものとして受け取られ、神性と結びついたキリストの人性についての明白な思想が曖昧なものになることのないためである。キリストの誕生は神の奇跡であった。……

決して、いかなる点においても、墮落の痕跡や傾向がキリストのうちに少しでも見られた、あるいはキリストが何らかの点で誘惑に屈したという印象を与えてはならない。人間がそうであるように、彼はあらゆる点で誘惑に遭われたが、『聖なる者』と呼ばれている。キリストが私たちと同様にあらゆる誘惑に遭われたにもかかわらず、罪のないお方であったということは、死すべき人間には不可解な神秘である。キリストの受肉は、これまでも、またこれからも神秘のままである。啓示されたことは私たちと私たちの子孫のものであるが、キリストを私たち自身と全く同じ人間であるかのように考えることはいかなる人間にも許されていない。そのようなことはありえないからである」(『SDA 聖書注解』第5巻 1128, 1129 ページ、エレン・G・ホワイト注)。

もっと深く学びたい方へ

『伝道』(英文) 614, 615 ページを読んでください。

▽ミ/ニ/ガ/イ/ド△

『ヘブライ人への手紙』(1)——時代の要請

『ヨハネの黙示録』が皇帝崇拜の強要に直面した第一世紀のクリスチャンにとって大きな慰めであったように、『ヘブライ人への手紙』は、自分達のアイデンティティーを模索し、苦しんでいたヘブライ人クリスチャン(ユダヤ教から改宗した人々)にとって、はかりしれない価値を持つ書でした。それは、やがて間もなく彼らが目撃することになるエルサレム滅亡と、長年、彼らの宗教生活の中心をなしていた神殿の破壊(ともに紀元70年)という衝撃的出来事のさなかで、彼らを支えることになります。その意味で、この手紙は、時代の要請を受けて誕生したものと言えるでしょう。特に、旧約時代の犠牲制度や聖所の奉仕に救済論の立場から光を与えた意味において、『ローマの信徒への手紙』と並んで、パウロ神学の双壁と言っても過言ではありません。

今期の研究を進める上での心得

聖書研究ガイドには二つの種類があります。ひとつは、今年の第1期の「契約」の学びのように、あるテーマにそって聖書から学ぶもの、もうひとつは、聖書の中の一つの書全体を学ぶものです。今期のガイドは後者に当たり、この種の研究は、特に実り多いものです。その理由をひと言で言えば、聖書を、その流れの中でとらえる機会が提供されているからです。

今期学ぶ『ヘブライ人への手紙』の中から簡単な例を挙げますと、ヘブライ4章で著者は、安息日が第7日であることを証明しようとしているわけではありません。3:7から4章全体を流れにそって注意深く見ると、パウロはそこで、おのれのわざに頼るのではなく、信仰によって神のふところに憩うことの奥義について語っているのです。昔のイスラエルは、7日毎の安息日は守っていましたが、この「神の安息」に入らなかったため、約束の地に入れず、長く荒野にとどまることになりました。踏み込んで言えば、安息日遵守は、この神の安息の象徴と言えます。このように文脈の中でその意味を捉えるために、今期、少なくとも数回、『ヘブライ人への手紙』全体を通読なさるようお勧めします。

* 自己同一性、独自性、主体性、個性、本質などを意味する。



第2課

7月12日

われらの王、イエス

● 暗唱聖句 ●

「御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである」
(ヘブル1:3、口語訳)

「御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました」
(ヘブライ1:3、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

7月5日

中心思想 『ヘブライ人への手紙』は、私たちの大祭司であられるイエスについて繰り返し述べていますが、同時に、イエスを王として描写しています。

世界の歴史の中で、王は長い間、変化に富んだ役割を果たしてきました。王は権力を持っているために、その品性はしばしば国民の運命を決定することがありました。イスラエルは指導者としての士師に満足することなく、王を求めました。そして、彼らは王を得ました。事実、多くの王を得ました。

聖書はイエスを一人の王として紹介しています。イエスは王の中の王です(黙17:14、19:16)。『ヘブライ人への手紙』の中で、祭司にして王なるイエスは慈悲深い支配者以上のお方として紹介されています。イエスは、その支配、統治、働きの性質のゆえに、私たちのために多くのことがおできになります。今週は、王としてのイエスの役割について学びます。

日曜日

王なるイエス(ヘブライ1章)

7月6日

NOTE

ヘブライ1章は主イエス・キリストへの「賛美」を含んでいます。神はキリストによって私たちに語られました(2節)。キリストは父なる神の完全な現れです(3節)。2節と3節において、キリストの存在が要約されています。それによれば、キリストは先在し、地上の生涯を送り、天に上げられました。彼は神と共に統治・支配されるお方であり、天使よりもはるかに優れたお方です(4節)。

ヘブライ1:5～14はなおもイエスを賛美します。(1)イエスは御子である(5節)。(2)イエスは礼拝を受けるべきお方である(6節)。(3)イエスは永遠から永遠にわたって王また神である(8、9節)。(4)イエスは創造主である(10～12節)。(5)イエスは神と共に支配し、すべてのものは彼に従う(13節)。

イエスが王であるという思想はこの手紙全体に流れている思想ですが、特にヘブライ1章において顕著です。「これらの言葉のうちに、主イエスの全能性が描かれている」(『SDA 聖書注解』第7巻921ページ、エレン・G・ホワイト注)。

問1 著者は至るところで(ヘブ1:3、13、8:1、10:12、12:2)イエスが神の「右の座」に着いておられると述べています。これは地理的・空間的なイエスの位置を意味するものですか。それとも天におけるイエスの権威を強調するものですか。

問2 興味深いことに、イエスは『ヘブライ人への手紙』の中で一度も「王」と呼ばれていません。しかし、さまざまな表現からイエスが王であられることは明かです。第1章のどんな表現がそのことを示していますか(ヘブ2:7、8、10:13参照)。

この手紙は至るところで、イエスが王であられることを暗示しています。イエスの玉座は永遠に続きます。イエスは王冠をいただき、すべてのものは彼に服従します。イエスは明らかに宇宙の王です。

NOTE

『ヘブライ人への手紙』における王の主題は、詩編 2、45、110 編を含む旧約聖書の数々の聖句にもとづいています。事実、詩編 110 編はこの手紙全体に用いられているだけでなく、ヘブライ 1 章の基礎にもなっています。ヘブライ 1:3 は詩編 110:1 を暗示し、ヘブライ 1:13 は詩編 110:1 から来ています。詩編 110:1 に関連したヘブライ 1:3 と同 1:13 との間に、イエスの王権に言及した 6 つの旧約聖書の引用が見られます。

問3 詩編110編を読んでください。ここにはどんな重要な思想が述べられていますか。ダビデは何と言っていますか。あなた自身の言葉で言い換えてください。

詩編110編は新約聖書の中で広範囲に引用されています。1節は王の即位について、4節は彼に祭司の職権が授けられることについて、その他の聖句は王が世界を統治することについて述べています。この王はまた、とこしえの祭司です。祭司にして王——これは驚くべき思想です。なぜなら、ダビデの家系に属する王が祭司を兼務したことはイスラエルの歴史にないからです。ここに、メシアに関する預言を見ることができます。この約束はメシアにのみ当てはまります。

問4 マタイ 22:41～45を読んでください。イエスは指導者たちに、御自身のどんなことについて語っておられますか。

古いユダヤ人の考え方によれば、メシアは二人いることになっていました。一人は王なるメシア(ユダ族出身)で、もう一人は祭司なるメシア(レビ族出身)です。『ヘブライ人への手紙』の中では、これらが一人のメシア、祭司にして王なるお方、イエスに統合されています。これは『ヘブライ人への手紙』全体に流れているテーマです。

火曜日

イエスの王権

7月8日

NOTE

私たちクリスチャンはキリストの永遠の先在を信じています。キリストは被造物ではありません。彼は永遠の昔から、支配者としての力をもって父なる神と共におられました。しかしながら、『ヘブライ人への手紙』の著者は受肉以前の御子の支配の性質や範囲について議論していません。

むしろ、著者にとって重要なのは、キリストの最終的な統治がその死、復活、昇天の後に始まったこと、つまり「人々の罪を清められた後」(ヘブ1:3)に神の右の座にお着きになったときであるということでした。受肉と死による恥辱の後に、復活と昇天がありました(ヘブ2:6~9)。まず十字架があり、それから王冠がありました(ヘブ12:2)。

問5 使徒言行録2章33~35節を注意深く読んでください。ペトロはここで、キリストの即位について何を言おうとしているのでしょうか。

ペトロがここで詩編110:1を引用していることに注目してください。これは、イエスが復活と昇天の後に王の地位に高められたことを意味します。地上におけるこの出来事の目に見えるしるしが、五旬祭における聖霊の賜物でした。ペトロは使徒言行録5:30~32で同じ主題について述べています。

このように、イエスは人類に救いをもたらした後で王となりました。したがって、救いと王権とは密接な関係にあります。救いの結果が永遠に続くように、イエスの王権も永遠に続きます。イエスは今、天使、聖なる者たち、天上の世界を支配しておられますが、敵はなお存在します。しかし、敵は最終的にはイエスの権威を認めます。イエスが宇宙の統治を完全の実現されるのはまだ先のことです。千年期の終わりに、罪と罪人は滅ぼされ、大争闘の諸問題は解決し、神と神の統治が永遠に擁護されます。

イエスの王権と救いが一つであるということは私たちに
とって何を意味しますか。キリストが王であるということは
どんな意味で、私たちに救いの確信を与えてくれますか。

NOTE

問6 次の聖句は王なるイエスの特性について何と述べていますか。

ヘブ1:8、9 _____

ヘブ1:12 _____

ヘブ2:9、10、12:2、3 _____

ヘブ7:1~3 _____

王の名は良し悪しさまざまな感情を呼び起こします。私たちは、イエスがどのような王であられるかを理解する必要があります。王なるイエスに関して、五つの基本的な特性があげられています。

平和の王(ヘブ7:1、2) メルキゼデクと同様に、イエスは平和の王です。“サレム”はヘブライ語のシャロームと関係があり、平和、完全、幸福を意味します。健康、繁栄、友情、救いという意味もあります。イエスは最高の平和の実現者です。

義と公正の王(ヘブ7:2、1:8) イエスは正しく、絶対的に公正なお方です。えこひいきされることはありません。イエスは義なるお方であって、私たちは彼の義のゆえに神との正しい関係に入ることができます。イエスは義を愛し、罪を憎まれます(ヘブ1:9)。

自己犠牲的な愛と慈しみ(ヘブ1:3、2:9、10、12:2~6)

イエスのうちには、利己心や自己中心性はありません。彼は他者のために生きておられます。彼は苦しみと死を避けられません。その苦しみと死が人数の多少にかかわらず人々に救いをもたらすときは特にそうです。

謙そんと奉仕の精神(ヘブ2:11) イエスは宇宙の至高の主です。それにもかかわらず、彼は私たちを兄弟・姉妹と呼ばれます。彼は王の中の王でありながら、私たちのための僕と呼ばれています。彼は指導者の最高の模範です。

不変性(ヘブ1:12、13:8) これは、イエスの愛、慈しみ、正義が決して変わらないという意味です。私たちはいつでもイエスに信頼することができます。

これらのイエスの特性は私たちにどんな希望を与えてくれますか。それらは第一の、最も重要な戒めを守る上でどんな助けになりますか(マタ22:37、38)。

木曜日

私たちの王、イエス

7月10日

昨日は、王なるイエスの特性について学びました。今日は、私たちのためのイエスの働きについて学びます。行動は品性から出ます。したがって、行動と品性の間には密接な関係があります。私たちはイエスのすばらしい特性について学びました。問題は、それが私たちとどんな関係にあるかということです。

NOTE

問7 次の各聖句は後にあげたテーマについて何と教えていますか。

ヘブ 5 : 9、7 : 25 (救い) _____

ヘブ 12 : 2 (信仰) _____

ヘブ 10 : 14 (清め) _____

ヘブ 4 : 15 (近い関係) _____

ヘブ 2 : 16、4 : 16 (助け) _____

ヘブ 11 : 16 (未来への備え) _____

『ヘブライ人への手紙』はイエスについて書いていますが、決して孤立したイエスではありません。それは恐るべき罪の結果から私たちを救うために働いておられるイエスについて書いています。永遠の滅びから私たちを贖ってくださるイエスについて、またイエスが今、私たちのために何をしておられるのかについて書いています。イエスは、私たちがこの世にあって生きるのを助けてくださいます。イエスはまた、私たちが信仰の戦いを戦い抜き、最後まで耐え忍んで栄光の冠を受けるために必要な平安と力と確信を与えてくださいます。

これが『ヘブライ人への手紙』のメッセージです。これが、パウロが当時の信者に書き送ったメッセージであり、同時に今日の私たちに書き残したメッセージです。

あなたは今、霊的な必要を感じていませんか。闘っている問題はありませんか。今日の研究を復習してください。きっと励ましを与えられるに違いありません。励ましを受けたなら、どのような励ましを受けたかを書き、できればクラスで発表してください。

NOTE

イエスは単なる王でないばかりか、最も力強い王でさえありません。キリストは、祭司にして王なるお方です。主は、祭司としてだけでなく、王としてもご自分を人類に結びつけられます。祭司にして王というこのお働きによって、キリストは、あがないの計画の次の段階にお入りになります。『ヘブライ人への手紙』の読者は、王なるキリストの内に、完全なゆるしと、救いと、助けと、理解と、力を見いだすのです。

「わたしは、あらゆる種類の花が満ちている別の野原を見た。そしてわたしは、花を摘みながら、『これは、しばむことがない』と叫んだ。次にわたしは、この上もなく美しい背の高い草の生えた野原を見た。それは、生き生きとした緑色で、銀と金を反映し、誇らかに揺れ動いて、王なるイエスに栄光を帰していた。それから、ライオン、小羊、ひょう、おおかみなど、あらゆる種類の動物がいっぱいいて、みな仲良く一緒にいる野原に入った。われわれが、動物たちの中を通ると、彼らは静かについて来た。それからわれわれは森に入ったが、それは、この地上の森のように暗くはなかった。それは明るく、一面に輝いていた。木の枝は揺れ動いていた。われわれはみな、『心を安んじて荒野に住み、森の中に眠る』と叫んだ。われわれは、森の中を通り抜けてシオンの山へ向かって行った」(『初代文集』68、69ページ)。

「天国への道は険しい。野バラやイバラが途中に生えている。しかし、私たちは快活にその荒れた道をたどることができる。栄光の王、イエスが私たちの前にそこをたどられたことを知っているからである」(エレン・G・ホワイト『レビュー・アンド・ヘラルド』1852年6月10日)。

▽ミ/ニ/ガ/イ/ド▲

問題解決の鍵——キリスト

『ヘブライ人への手紙』の著者が相手にしている会衆について描いた次の言葉は、今日の私たちにとっても示唆的です。

「(彼らは)霊的葛藤^{かっとう}に疲れ、祈りの生活をどうにか続けようとする努力に疲れ、……彼らの手は萎え、膝^{ひざ}は弱くなっている(12:12)。礼拝の出席者は減っている(10:25)。彼らは自信を失いつつある。ここでの脅威^{しやうゐ}とは、憔悴^{しょうすい}し、やがて擦り切れてしまって、掴^{つか}んでいるロープの端を手から放り出し、漂流しようとしていることである。歩くべき道を歩くことに疲れ、彼らの多くはあちこち歩き回ってみようと思うようになり、教会を去り、信仰から離れようとしている」(T・G・ロング『ヘブライ人への手紙』24、25ページ)。

このような問題に対して、パウロが示した解決^{せん}の処方箋は、手紙の冒頭から最後まで、徹頭徹尾「キリスト」でした。

今期のガイドは、題目的に取り上げられており、文脈にそってその意味を明らかにしていく厳密な意味での釈義ではありませんが、その上に立って、全体をキリスト中心の説教として位置づけていることに大きな価値があります。私たちも、この視点をしっかりととらえたいものです。

『ヘブライ人への手紙』の中のキリスト(1)——われらの王

『ヘブライ人への手紙』は、初めから壮大なキリスト論を展開しています。パウロはまず、「終わりの時」への言及によって、神の最高の啓示・キリストの到来を、救いの歴史における決定的な転換点として位置づけています。われわれはもはや影の時代ではなく、成就の時代に生きているという興奮が伝わってきます。続いて、著者は、創造、犠牲制度の完成としての十字架による贖罪^{しよくざい}、復活、昇天、とりなしを通して、キリストが預言者の中の預言者であり、祭司の中の祭司であり、王の中の王であると力説します。しかもこれらのことは、預言の成就として起こったことを、旧約聖書からの数々の引用によって示し、キリストこそが真のメシアであることを強調して、ユダヤ人クリスチャンの注意を喚起します。これは、現代に生きる私達にとっても大きな励ましです。



第3課

7月19日

われらの兄弟、イエス

●暗唱聖句●

「そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となつて、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった」
(ヘブル2:17、口語訳)

「それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となつて、民の罪を償^{つぐな}うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです」
(ヘブライ2:17、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

7月12日

中心思想 イエスは肉体をとってこの世に來られました。彼は肉において誘惑を受け、苦しみ、死なれました。しかもその肉において一度も罪を犯されませんでした。このイエスが、今、私たちの大祭司として天にいられます。

指揮者で作曲家のレオナード・バーンスタインが、一番難しい楽器について尋ねられたとき、次のように答えました。

「第2バイオリンです。第1バイオリンを希望する人はたくさんいますが、第2バイオリンや第2フレンチ・ホルンや第2フルートを希望する人は少ないのです。でも、第2バイオリンを弾いてくれる人がいなければ、ハーモニーが生まれません」。

どんな場合でも、2番になることは容易ではありません。1番になる資格のある場合は特にそうです。1番にいた人があえて2番になる場合はなおさらです。1番であった者が2番になったことで見下されることはそれ以上につらいものです。

しかし、これがまさにイエスのなされたことでした。今週は、イエスの謙遜の意味について考えます。

日曜日

イエスの謙遜

7月13日

NOTE

「ただ、『天使たちよりも、わずかの間、低い者とされた』イエスが、死の苦しみのゆえに、『栄光と栄誉の冠を授けられた』のを見えています。神の恵みによって、すべての人のために死んでくださったのです」(ヘブ2:9)。

ヘブライ1章には、イエスが天使にまさるお方であると書かれていました(5～14節)。ところが、2章では、イエスの地上における働きに関連して、イエスが「天使たちよりも、わずかの間、低い者とされた」と書かれています。何という相違でしょう。

問1 ヘブライ2:5～18を読み、その要旨を2～3行にまとめてください。

明らかに、この箇所はイエスの人性について述べています。イエスは王、また天使にまさるお方であられたにもかかわらず、「アブラハムの子孫」(16節)として生まれ、すべての人のために死に(9節)、私たちのために「憐れみ深い、忠実な大祭司」(17節)となられました。

もう一つ注目したいのは、1章がイエスの高揚に言及し、2章がイエスの謙遜に言及していることです。著者は、読者が自分たちの信じるお方を再認識し、その信仰を再確認するために、まず初めにイエスの威厳に満ちた役割について描写しようとしたのでしょう。

身代わりの死を含むイエスの受肉は非常に重要な意味を持ちますが、それらはイエスの神としての永遠の存在に照らして理解する必要があります。そのとき初めて、イエスの謙遜の持つ深い意味を正しく理解することができます。

創造主なるイエス、神なるイエス、宇宙の王なるイエスは人性をとられました。この点において、イエスは私たちに理解できない苦しみを経験されました。このことが何を意味するか考えてください。この驚くべき真理が与えてくれる希望、約束、福音を理解できるように祈りましょう。

NOTE

「神に僅かに劣るものとして人を造り / なお、栄光と威光を冠としていただくせ」(詩8:6)。

問2 ヘブライ2:6～8と詩編8:5～7を比較してください。『ヘブライ人への手紙』の著者はこの詩編をどのように用いていますか。彼はそれをどのように解釈し、適用していますか。

「詩編8編の用い方は……興味深い。この部分がメシアに関するものとは考えられていなかったからである。原文の文脈は人間について述べている。しかし、それは通常の人間ではなく、理想的な人間である。……人間は創造において地を支配する権限を与えられたが、墮落以後、その権限は失われた。したがって、この詩編はただひとりこの権限をお持ちになる理想的な人間、イエス・キリストにおいてまさに完全に実現した。……同じ詩編はイエス(マタ21:16)とパウロ(コリ15:27)によって、イエス御自身において成就したものとして引用されている」(ドナルド・ガスリ『ヘブライ人への手紙』84、85ページ、1993年)。

真に私たちを代表するために、イエスは私たちのひとりとならなければなりません。そのとき初めて、イエスは私たちのために救いの道を開き、人類のために神の御前に立つ真の大祭司となることがおできになります。

詩編8編の基本的な意味は人類全体に当てはまりますが、『ヘブライ人への手紙』は特にそれを、「最後のアダム」(コリ15:45)であり、詩編8編で人類の新しい代表者として描かれているイエスに当てはめています。そうすることによって、著者は、イエスが人間であると同時に、私たちを罪から贖うにふさわしいお方であったことを確証しています。

ヘブライ1～2章に述べられていることは、イエスが完全に神であり、同時に完全に人であられるということです。この事実は、私たちに与えられている救いに信頼する上でどんな助けになりますか。

火曜日

イエスの苦しみ

7月15日

NOTE

ヘブライ2章はキリストの苦しみに関して強い表現を用いています。著者は「死の苦しみ」について語り、イエスが神の恵みによってすべての人のために死なれると言っています(9節)。死と苦しみはヘブライ2:18、5:8、12:2、13:12にも言及されています。

罪なき神の御子が世の罪のために苦しまれる光景は、残酷な光景です。イエスは御自分が一度も犯したことの無い罪のために神の怒りを一身に負い、すべての人のために、また最後には自らの不従順と反逆のために死なねばならない者たちのためにさえ死なれるのです。

確かに、これは残酷です。しかし、それがまさに何を意味するかを表していたのです。それは罪の代価と罪からの贖いの代価の大きさを私たちに理解させてくれます。

問3 キリストの苦しみはどのような結果をもたらしますか。

ヘブ2:9 ~ 11 _____

ヘブ2:14 ~ 16 _____

ヘブ2:17、18 _____

キリストの死ははかり知れない苦みの結果でしたが、次の結果をもたらしました。(1)イエスが栄光を受けられた。(2)サタンが敗北した。(3)私たちの救いが保証された。(4)イエスが人類と密接な関係になられた。(5)イエスが私たちの大祭司にふさわしいお方であることがわかった。(6)イエスは私たちを誘惑から守ってくださる。ほかに何が必要でしょうか。

問4 ヘブライ2:14、15を読んでください。そこには、イエスが来られたのは御自分の死によって死をつかさどる者を滅ぼすためであったと書かれています。この聖句によれば、イエスは死の恐怖を取り除くために何をしてくださいましたか。

NOTE

問5 特に11節に注意して、もう一度、ヘブライ2章を通して読んでください。この章の中で「兄弟」という言葉はどのようなことを意味しますか。著者は何を強調していますか。

「兄弟」という言葉はここでは親密な関係を表します。イエスとイエスに従う人たちとは一つの家族です。イエスは苦難に満ちたその経験のゆえに私たちのひとりです。彼は偉大な王であられるにもかかわらず私たちのひとりであり続けられます。ヘブライ2:14は、イエスが私たちと同じ血と肉、同じ性質と経験にあずかれたことを強調しています。イエスは私たちのひとりとなることによって、私たちと親密な関係にお入りになります。イエスがなされた方法以外に、神が御自身の被造物と親密な関係に入られる方法がほかにあったでしょうか。

問6 親密さはある種の危険を含む場合があります。たとえば、イエスを私たちの相棒のように考えてしまうことです。確かに私たちとイエスの間には友だちの要素がありますが（ヨハ15:15）それだけではありません。聖書は私たちとイエスとの関係に関してほかにどんな象徴を用いていますか。ヨハ10:11、20:28、テモ1:1

イエスを単に遠く離れた宇宙の支配者として見ることも、あるいは単に私たちの仲間として接するようなことも避けなければなりません。私たちはしかるべき崇敬と愛をもって「兄弟」としてのイエスに接するべきです。なぜなら、たとえ私たちと親しい関係にあるとはいえ、イエスはなお創造主、私たちはその被造物であって、両者の間には大きな隔たりがあるからです。

キャロラインは兄弟たちから虐待を受けて育ちました。そのせいか、「兄弟」としてのイエスのイメージはどうしても否定的になりがちです。あなたは彼女のような人を何と言って慰めますか。

木曜日

われらの大祭司、イエス

7月17日

「それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです」(ヘブ2:17)。

NOTE

ヘブライ2章は私たちの兄弟イエスの大祭司としての務めと、大祭司に必要な資格を列挙しています。それはまた、イエスが行っておられる大祭司としての働きを簡潔に描写しています。その資格の一つは、主は人間と同じように罪の誘惑に直面しなければならなかったということでした。

問7 イエスが試練を受けられたことは『ヘブライ人への手紙』に二度しか書かれていません(2:18、4:15)。それらは互いにどのように補足し合っていますか。イエスが「罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に^あ遭われた」とは、どういう意味ですか。

イエスは決して罪に屈服されませんでした。しかしながら、主はだれよりもよく罪の力を知っておられました。

いや、それ以上です。私たちは石をパンに変えるように誘惑を受けたり、天使の軍団に命じて自分を助けるように試みられたことがあるでしょうか。大争闘の争点について考えるなら、サタンは私たちに罪を犯させることよりも、イエスに罪を犯させることの方にはるかに関心を持っていたはずです。それにもかかわらず、これほどの誘惑の中にありながら、イエスは決して誘惑に屈したり、罪を犯すことがありませんでした。この経験こそ、イエスを私たちの大祭司にふさわしいお方としている理由の一つです。

ヘブライ2:16～18を注意深く、祈りをもって読んでください。すでに学んだように、キリストの人性は大祭司としての働きと関係があります。17節のどんな二つの言葉が、キリストの大祭司としての性質を描写していますか。キリストの人性はこれらの性質とどんな関係がありましたか。

NOTE

ヘブライ2章は、イエスがその人性において成し遂げられたことを描写しています。彼は私たちのために死を味わい、救いのさがけとなり、サタンと死に勝利し、私たちを実存的な恐れから解放し、罪のあがないをし、試みの中で助けを与えられます。彼は私たちの兄弟であるゆえに、私たちは確信を持つことができます。

「キリストのうちには、神性と人性、創造主と被造物とが一つに結びついていた。御自分の律法を侵犯された神の性質と違反者アダムの性質とが、神の御子であり、しかも人の子であるイエスのうちに出会う。御自身の血をもって贖いの代価を払うことによって、人としての経験をすることによって、人のために誘惑に遭い、勝利することによって、自らは罪がなかったにもかかわらず、罪の恥辱と責任と重荷を負われることによって、イエスは人の弁護者また仲保者となられる。キリストが『憐れみ深い、忠実な大祭司』となられるということは、試練に遭い、戦っている魂にとって何という保証、目撃する宇宙にとって何という保証であろうか！」(『SDA 聖書注解』第7巻926ページ、エレン・G・ホワイト注)

「神の御子の人性は私たちにとってすべてである。それは私たちの魂をキリストに、そしてキリストを通して神に結びつける黄金の鎖である。キリストは真の人であられた。彼は人となることによって御自分の謙遜を証明された。しかし、彼は肉における神であられた。この問題を扱うときには、キリストが燃える柴の中からモーセに語られた言葉に留意する必要がある。『足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから』(出3:5)。私たちは学習者の謙遜と悔い改めた心をもって、この研究に当たらなければならない。キリストの受肉に関する研究は実り多い分野であって、隠れた真理を熱心に探し求める探求者に報いをもたらす」(『セレクトッド・メッセージズ』第1巻244ページ)

もっと深く学びたい方へ

『各時代の希望』下巻173～189ページ(ゲッセマネ)を読んでください。

▽ミ/ニ/ガ/イ/ド▲

聖書の読み方について

ご存じのように、聖書のひとつひとつの書巻には、もともと、「章」や「節」による区切りはありませんでした。これは、読みやすいように、後世の学者がつけたものです。日本聖書協会によって刊行された最新の聖書である『新共同訳聖書』のように「小見出し」までつくると、ますますそれにとらわれてしまう危険がありますので、この点は、気をつけねばなりません（もっとも初めて聖書を読む人々にとっての利点もありますが）。

要するに、各章はそれ自体で完結するものではないということです。これは、当たり前のように、とても大切なことなのです。つまり、思想の連続性と継続性を頭に置いて読むことが肝要です。この意味でも、書全体を読む、いわゆる「通読」には無限の価値があります。

『ヘブライ人への手紙』の中のキリスト（2）——われらの兄弟

1章の中心テーマは、ひとことで言えば、「イエスは神である」と言えるでしょう。続く2章。この部分でパウロが一番強調しているのは、「イエスの受肉と死」です。

マーク・トウェーンの『王子と乞食』の物語や、昔のロシア皇帝アイバンが、民心を探るために乞食に変装して町に出かけた話など、心そられるものがあります。

しかし、どの話も、王子様や皇帝（あるいは王様）が、本当に自分の身分を変えたわけではありません。その点で、キリストの受肉はまさに圧巻であり、信じがたいほどの驚きです。

「救い主は、われわれの性質をおとりになることによって、決してたちきれることのないきずなでご自分を人類にむすびつけられた。永遠にわたって、キリストはわれわれとつながっておられる。……われわれの罪を負い、われわれのいけにえとして死ぬために、神はみ子をお与えになっただけではない。神はみ子を墮落した人類にお与えになったのである。……神とともに宇宙のみ座を占めておられるのは……われわれの兄弟である。天は人間のうちに宿り、人間は限りない愛の神の胸にいだかれている」（『各時代の希望』上巻 11、12 ページ、強調付加）。



第4課

7月26日

高く、優れたお方、イエス

●暗唱聖句●

「このように、聖にして、悪も汚れもなく、罪人とは区別され、かつ、もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとってふさわしいかたである」
(ヘブル7:26、口語訳)

「このように聖であり、罪なく、汚れなく、罪人から離され、もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとって必要な方なのです」
(ヘブライ7:26、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

7月19日

中心思想 キリストの優越性は、キリストのお働き全体の基礎であり、私たちが受ける祝福に道を開くものです。

優越感の強い人 優越感の強い人を好む人はあまりいません。付き合いにくいからです。だれでも人を見下すような人と一緒にいたくはありません。自己の優越感(高慢)は最初の罪であったばかりでなく、最も扱いにくい罪でもあります。

『ヘブライ人への手紙』はこの優越性について記しています。しかし、それは、イエス・キリストの優越性です。キリストの優越性には不快なところ、高慢なところ、嫌悪すべきところは全くありません。それどころか、キリストの優越性は私たちの信仰と服従を強めてくれます。なぜなら、キリストの優越性にこそ救いの希望があるからです。

今週の研究 今週は、『ヘブライ人への手紙』が、イエスの優越性をどのように描いているか、その生涯と死と、私たちのための天での奉仕は、イエスの優越性について何を教えているか、私たちはキリストが成し遂げられたことに、どのように応答すべきかについて学びましょう。

日曜日

キリストの優越性

7月20日

問1 『ヘブライ人への手紙』はイエスの優越性について何と述べていますか。

NOTE

ヘブ1:4 _____

ヘブ3:3 _____

ヘブ7:26 _____

ヘブ12:24 _____

イエスは天使、モーセ、大祭司よりも優れたお方です。イエスの血はアベルの血よりも優れています。イエスは天よりも高いお方です。それにもかかわらず、イエスは地上におられたとき、決して優位を求められませんでした。

福音書によれば、イエスは質素で、謙遜で、人々への奉仕に満ちた生涯を送られました。『ヘブライ人への手紙』に示されているように、もし望みさえすれば、いくらでも誇る理由があったにもかかわらず、キリストは決して優位な立場を求められませんでした。

イエスの態度を現代の状況と比較してください。現代人の行動は大部分、自己賞揚によって動機づけられています。悲しいことに、クリスチャンもこうした傾向と無縁ではありません。弟子たちと同様、私たちもだれが一番偉いか議論するかもしれません(ルカ22:24)。対照的に、今日の聖句は、キリストが天使やモーセよりも優れていることをはっきりと教えています。しかし、キリストの地上生涯とその行状を見るかぎり、謙遜、自己否定、自己犠牲のほかは何も見ることができません。しかも、それらはすべて自分よりも劣った人々のためになされたものです。モーセよりも優れたお方はまた、身をかがめて弟子たちの足を洗われたお方でした。

すべての者に優っていながら、すべての者に仕える——これがイエスでした。イエスの模範を見て、あなたはどのように感じますか。『ヘブライ人への手紙』に描かれたイエスと福音書に描かれたイエスについて瞑想してください。それらは私たちにどんなメッセージを伝えていますか。

NOTE

イエスが優れておられる理由の一つはもちろん、イエスが神であり、創造主であられるということです（これ以上の優越性はありません）。これが、『ヘブライ人への手紙』の指摘している点です。しかしながら、イエスの優越性はその先在性や神性から来ているとは思われません。興味深いことに、使徒パウロはイエスの優越性をその「劣性」に結びつけています。

問2 ヘブライ2:9を読んでください。それは「劣性」と「優越性」の関係について何を教えていますか。フィリ2:4～9参照

ペトロは使徒言行録10:36で、イエスがすべての人の主であると言っています。しかし、その2節あとで、すべての人の主が地上においてなされた業について次のように記しています。「イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのです」（38節）。これが真の偉大さ、「劣等性」における偉大さです。

問3 真の謙そんと奉仕の精神が栄誉をもって報われることは、聖書の中のどんな模範に示されていますか。

エジプトにおけるヨセフは、奴隷のときも囚人のときも、忠実に務めを果たしました。その結果、彼は指導者にまで高められました。モーセは、ミディアンで義父の羊を飼っていたときも、イスラエルの指導者になろうという野望を持っていませんでした。「モーセという人はこの地上のだれにもまさって謙遜であった」（民12:3）。ダビデは羊飼いでしたが、後に王となりました。イエスは言われます。「あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようになりなさい」（ルカ22:26）。

地上におけるイエスの比類ない奉仕はその地位を優れたものとし、同時に現在の務めを優れたものとししました。

火曜日

イエスの優れた務めの結果

7月22日

問4 『ヘブライ人への手紙』はキリストの優れた地位と務めの結果についてどのように記していますか。

ヘブ 7 : 22 _____

ヘブ 8 : 6 _____

ヘブ 10 : 34 _____

ヘブ 11 : 16、35 _____

NOTE

イエスの優越性がもたらす結果の大部分——優れた希望・契約・財産・故郷・復活など——は将来に関するものです。イエスは御自分に従う者たちに輝かしい未来を約束しておられます。その中に、優れた復活、すなわち最終的な復活があります。これは一時的な、死すべき生命への復活（聖書にもそのような例が記録されています）ではなく、新しい世界における終わりのない生命への復活です。

これらの約束が将来に関するものであるとはいえ、今日の私たちにとっても効力を持ちます。現世は永遠への前触れとして重要な意味を持ちます。なぜなら、それはイエスと共に永遠を勝ち取る機会を与えてくれるからです。この意味において、優れた約束、優れた契約は現世の私たちにも影響を与えるものです。主が御自分の律法を私たちの心に記し、それを守る願望を与えてくださるのは今、この世においてです。私たちがイエスに従い、イエスを愛し、イエスの品性を反映する力を受けるのは今、この世においてです。

問5 ヘブライ 11 : 13 ~ 16 を読んでください。著者はここで特に何を強調していますか。それは手紙全体の主旨とどのように調和しますか。それは現在の私たちに何を語りかけていますか。

神はキリストを通して御自分の民に素晴らしい真理を啓示してくださいました。彼らは信仰をもってこれらの真理を受け入れるのでしょうか。それともこれらのものから目をそらし、元の状態に戻るのでしょうか。これがヘブライ人に突きつけられた挑戦でした。それはまた私たちに対する挑戦でもあります。

NOTE

イエスがあらゆる点においていかに優れていようと、またイエスとイエスの優越性に中心を置く救いの計画がいかに広範囲で完全、かつ効果的なものであらうとも、神にはおできにならないことが一つあります。それは従うように強制することです。いつでもそうですが、問題は私たちの応答にかかっています。「仕えたいと思うものを、今日、自分で選びなさい」(ヨシュ24:15)。当時のヘブライ人に対するヨシュアのこの命令は、パウロの時代のヘブライ人にも、また今日の「ヘブライ人」にもあてはまります。

問6 『ヘブライ人への手紙』はイエスの優越性について語っていますが、その一方で人々を比較しています。ヘブライ11:4を読んでください。それはアベルについて何と述べていますか。彼の「優れた」いけにえは何でしたか(創4:1～8参照)。

アベルの名は『ヘブライ人への手紙』に2回出てきます。アベルはカインよりも優れたいけにえを献げることによって神を崇めました(11:4)。12:24では、イエスの血がアベルの血と比較されています。アベルは神を信じて義とされました。アベルは死後もなお「語って」いますが、イエスの血はアベルの血よりも力強く語っています。アベルは11章に登場する最初の信仰の勇者であり、最初の殉教者です。しかし、イエスは彼よりもはるかに優れたお方です。

問7 ヘブライ11:25を読んでください。ここにも比較がなされています。どんな比較ですか。モーセはどんな選択をしましたか。

アベルと同様、モーセもイエスを選びました。彼は罪の楽しみにふけるよりは、むしろ(字義的には「すすんで」)神の民と共に虐待される方を選びました。彼はキリストのゆえに受けるあざけりをエジプトの財宝よりまさる富と考えました。

私たちは毎日どんな選択をしていますか。

木曜日

私たちの応答(その2)

7月24日

NOTE

きのうの研究では、良いものと悪いものとの間でどちらかを選ばねばならない状況に直面して、良いほうを選んだ二人の人物について学びました。しかし、いつでもそうであるとは限りません。

「あなたがたは、語っている方を拒むことのないように気をつけなさい。もし、地上で神の御旨を告げる人を拒む者たちが、罰を逃れられなかったとするなら、天から御旨を告げる方に背を向けるわたしたちは、なおさらそうではありませんか(ヘブ12:25)。もう一度、優れたものとそうでないものとを比較してください。

問8 ヘブライ 12:25 で著者は何を言おうとしていますか。このことは手紙全体の趣旨とどのように調和しますか。

「モーセの律法を破る者は、二、三人の証言に基づいて、情け容赦なく死刑に処せられます。まして、神の子を足げにし、自分が聖なる者とされた契約の血を汚れたものと見なし、その上、恵みの霊を侮辱する者は、どれほど重い刑罰に値すると思いますか」(ヘブ10:28、29)。

問9 上記の聖句の要点は何ですか。それらは、ほかの人たちよりも「多くのもの」を与えられている私たちセブンスデー・アドベンチストにどんな教訓を与えていますか。

イエスの優越性に対する人間の応答はいつでも二面的です。ある人たちは喜んでイエスを主として受け入れます。ある人たちは故意にイエスを拒みます。ある人たちは、主がどのようなお方で、自分たちのために何をしてくださったかを知りながら、主を拒んでしまいます。『ヘブライ人への手紙』は特にこのような人たちに訴えています。この訴えは手紙全体に見られます。

パウロの時代のクリスチャンがこの訴えに耳を傾ける必要があったとすれば、現代の私たちはなおさらです。

NOTE

キリストの優れた奉仕は、地上におけるさらにまさった犠牲と、天における私たちの大祭司としてのさらに優れた奉仕に分けられます。これらの奉仕の結果、私たちはさらにまさった契約、さらにまさった希望、さらにまさったみ国、さらにまさった復活の受益者となりました。かくも偉大な救いを与えてくださる主に、私たちのすべてをささげないでられるのでしょうか。

「キリストは不名誉と恥辱に対して無感覚であられたわけではない。彼はそれを非常に強くお感じになった。私たちが苦しみを感じるよりもはるかに深く、鋭く、キリストはそれをお感じになった。彼の性質が罪深い人類のそれよりも高尚で、純粹で、聖なるものであったからである。キリストは天の大君であり、父なる神と同等であり、天の万軍の司令官であられたが、人のために死なれた。その死はとりわけ恥辱と不名誉に覆われていた。ああ、人間の尊大な心がこのことを認識するとよいのに！ ああ、彼らが贖いの意味を理解し、イエスの柔和と謙遜に学ぶとよいのに！」
(『イエスを知るために』 339 ページ)

「イエス・キリストの血は私たちをすべての罪から清める。それはアベルの血よりも力強く語る。キリストは常に生きていて、私たちのために執り成しておられるからである。私たちはたえずイエスの血の効力に目をとめる必要がある。生きた信仰によって自分のものとなるこの命を清める血、命を支える血は私たちの希望である。私たちは計り知れないその価値をもっと深く理解する必要がある。なぜなら、私たちが信仰によってその徳を要求し、良心を清く神に対して平安に保つときにのみ、イエスの血が私たちのために語るからである」(『SDA聖書注解』第7巻947ページ、エレン・G・ホワイト注)

▼ミ/ニ/ガ/イ/ド▲

『ヘブライ人への手紙』の中のキリスト(3)——優れたお方

『ヘブライ人への手紙』が、救いに関して一貫して読者に伝えているメッセージは、「キリストの苦しみにあって、われわれの救いはまっとうされた」ということです。この調べが、あたかもテーマソングのように、手紙全体に繰り返されています。その最初のものが2:9であり、また2:14～18にもこのメッセージが反響しています。すなわち、人類が「生かされる」道は、優れたお方が徹底的に卑しめられ、低められ、あげくの果てに、はずかしめの死を受けることでした。

今週の研究で、最も強調したいポイントの一つを、ガイドの中の言葉で表現しますと、「すべての者に優っているが、すべての者に仕える(29ページ) また「劣性の中にあらわされたイエスの優越性(30ページ参照)」ということになりましょうか。

私たちがイエスの優越性を受け入れるということは、キリストの模範にならって「自己に死ぬ」ということです。これは、言葉で言うのは簡単ですが、現実には大変難しいことです。秘訣はただ一つ、徹頭徹尾、この書を通して啓示されたキリストを仰ぐことです。

三浦綾子さんの本に、元日本共産党議長宮本顕治氏の夫人ですぐれたプロレタリア作家でもあった宮本百合子のことが記されています。

百合子がまだ実家の中條家にいた頃、彼女の誕生パーティーがあって、みんなの前に半熟の卵が出された時のことです。招かれた客の中に尾崎ふさという貧しい家の娘がいました。小さい頃から親に、皿は隅々までなめろと言われて育った彼女は、半熟卵のべったりとついた皿をペロペロなめたのです。ほかの客たちはそれを見て驚き、皆うつむいてしまいました。上流階級で格式がありマナーの徹底した百合子の家では考えられない無作法をしてしまったのです。パーティーの席がシラッとしたその時、百合子が尾崎ふさと同じように、自分の皿をペロペロなめて、「今どき卵なんて貴重品なんだから、もったいないよね」と言ったのです。

三浦さんは、「私には一生真似の出来ないゆるしである」と言っています。真の優越性とは何かを考えさせられるエピソードですね。



第5課

8月2日

われらの大祭司、イエス

● 暗唱聖句 ●

「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか」

(ヘブル4:15、16、口語訳)

「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に^あ遭われたのです。だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか」

(ヘブライ4:15、16、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

7月26日

中心思想 聖書の中で、『ヘブライ人への手紙』ほど、天におけるイエスの祭司職について明確な説明をしている書はほかにありません。

第1次世界大戦後、フランス人とドイツ人が互いに憎み合っていた頃の話です。ドイツ人で宿屋の主人、マックス・フラット氏はライン川へ泳ぎに行きました。川は水かさが増して、危険な状態でした。対岸では、フランスの兵士たちが平底舟で訓練をしています。突然、そのうちの一艘が転覆し、乗っていた4人の兵士が激流に流されました。数日前には、フランスが7人のドイツ人に死刑を宣告したばかりでした。フラット氏は躊躇することなく川に飛び込み、二人のフランス兵を助けました。翌日、フランス軍の大尉が彼のもとを訪ね、彼の英雄的な行為に謝意を表し、何か謝礼がしたいと申し出ました。フラット氏は次のように答えました。「素晴らしい返報の方法があります。命には命をもって報いることです。7人のドイツ人の赦免をお願いします」。

この話は執り成しがどのようなものであるかをよく表しています。

日曜日

イエスの祭司職

7月27日

「今述べていることの要点は、わたしたちにはこのような大祭司が与えられていて、天におられる大いなる方の玉座の右の座に着き」(ヘブ8:1)

NOTE

『ヘブライ人への手紙』は、祭司、大祭司、祭司職という三つの言葉で、天におけるキリストの働きを説明しています。これらの言葉がキリストに関して用いられているのは、新約聖書の中でここだけです。つまり、この手紙はほかにはない強調点を持っているということです。

祭司、あるいは祭司職という思想はこの手紙のあちこちに出きます。それはレビ人の祭司職とメルキゼデクの祭司職を描写していますが、つねに、イエスの祭司職が背景になっています。

問1 ヘブライ2:17、3:1、4:14、5:6、8:1を読んでください。これらの聖句に共通していることは何ですか。それらは私たちにとってどんな重要な意味を持ちますか。

イエスの天における祭司職は、『ヘブライ人への手紙』の中心的な要素です。「今述べていることの要点は、わたしたちにはこのような大祭司が与えられていて、天におられる大いなる方の玉座の右の座に着き」(ヘブ8:1)。メシアなるイエスは天の聖所におられる大祭司なるイエスです。

祭司としてのキリストという思想は聖書のほかの個所でも見られますが(ヨハ2:1、2、テモ2:5) キリストの祭司職についてこれほど明確に書かれているのは『ヘブライ人への手紙』だけです。

祭司という言葉は今日、どのように理解されていますか。たとえばペトロ・2:5、9にあるように、プロテスタントはすべての信者が祭司であると考えます。これは何を意味しますか。私たちが祭司であることとキリストが祭司であることとはどのように異なりますか。

NOTE

イエスの祭司職はレビ人の祭司職とは異なりますが、レビ人の大祭司アロンはイエスと比較されています。両者の間には明白な違いがありますが、共通点は研究に値します。ヘブライ5章において、アロンはキリストの象徴として描かれています。二人とも人間であり、神によって選ばれ、人類のために働きます。二人とも犠牲を捧げ、人類の「罪のため」に働きます。

問2 アロンの祭司職とイエスの祭司職との間にはどんな違いがありますか。ヘブ5:1~10、9:6~12

イエスは人であり、同時に神の御子です。しかし、アロンはそうではありませんでした。これがヘブライ5:5、6で強調されている重要な点です。ここに引用されている詩編2編と110編の聖句がイエスの御子としての身分を祭司職と関連づけています。イエスが御子であられたゆえに、神はイエスにメルキゼデクの祭司職をお授けになりました。

犠牲に関しても違う点があります。イエスもアロンも犠牲を捧げますが、イエスの犠牲は1回限りで、しかもすべての人に十分なものでした。それは永遠に有効で、ほかの犠牲によって置き換えることのできないものです。

さらに、イエスは犠牲であると同時に祭司です。この点で、祭司だけのアロンとは大きく異なります。イエスはまた、アロンや他のすべてに祭司達と異なり、全く罪によって汚れていませんでした。レビ人の祭司職もイエスの祭司職も、同情をもって罪人を扱うと述べられています。しかし、これは理想的なレビ人の祭司にのみ言えることです。ある人々は乱暴で、無頓着で、不信仰でした(レビ記10:1、エレミヤ書20:1~6、マタイ26:3、4を参照)。対照的に、『ヘブライ人への手紙』は特にイエスの働きこの面を強調しています。

イエス御自身は罪がありませんでしたが、罪人を優しく思いやり、憐れみと同情をもって彼らを扱われました。さらに言えば、アロンは地上で仕えましたが、イエスは天で仕えておられます。

火曜日

イエスとメルキゼデクの祭司職

7月29日

「ところで、もし、レビの系統の祭司制度によって、人が完全な状態に達することができたとすれば、——というのは、民はその祭司制度に基づいて律法を与えられているのですから——いったいどうして、アロンと同じような祭司ではなく、メルキゼデクと同じような別の祭司が立てられる必要があるでしょう」(ヘブ7:11)。

NOTE

人間的に言うならば、イエスには祭司として働く資格はありません。レビ族の出身であるアロンとは異なり、イエスはユダ族の出身だからです。また、旧約聖書によれば、祭司はみなアロンの家系に属する者でなければなりません(出28:1、40、41)。

しかしながら、イエスは御子、すなわち神性と人性を同時に共有される唯一のお方でした。彼は人間のうちに住み、十字架上で私たちのために死なれました。このことのゆえに、イエスはただひとりの完全な仲保者であり、最終的な意味において私たちの真の大祭司となることのできるただひとりのお方です。

問3 メルキゼデクとはだれのことですか(創14:18～20参照)。

ヘブライ7章はメルキゼデクについて簡潔に記しています。彼はレビよりも偉大な人物です。なぜなら、レビの先祖のアブラハムも彼に十分の一を献げ、祝福しているからです。メルキゼデクはキリストの型として描かれています。

問4 キリストが祭司であることと御子であることとの間にはどんな関係がありますか。ヘブ3:1～6、5:5～8、7:28

『ヘブライ人への手紙』においては、御子に関する論題は非常に重要です。イエスは御子であられるゆえにモーセ(ヘブ3章)やアロン(5章)よりも優れたお方です。イエスはまた御子であられるゆえに、メルキゼデクよりも優れたお方です。

NOTE

問5 祭司にして大祭司なるイエスはどんな特性を持っておられますか。

ヘブ2:17 _____

ヘブ4:14、15 _____

ヘブ7:24 ~ 26 _____

ヘブライ2:17で、イエスは憐れみ深く、忠実なお方とされています。それに加えて、ヘブライ4:14 ~ 5:10にはイエスの罪のなさが描写されています。著者は、イエスが私たちと親しいこと、またその人性、兄弟であることを強調する一方で、イエスが「罪を犯されなかった」こと（ヘブ4:15）「罪なく」「汚れなく」、したがって「罪人から離され」ておられたことを明記しています（ヘブ7:26）。

イエスの潔白さは地上における働きだけでなく、天における働きにとってもきわめて重要な問題でした。もしキリストが地上で罪を犯していたなら、天において私たちのために働くことがおできにならなかったでしょう。キリストは聖なるお方、永遠に完全なるお方、もろもろの天よりも高いお方であるにもかかわらず、弱く、罪深い私たち人間に関心を寄せてくださいます。

問6 『ヘブライ人への手紙』はイエスの大祭司としての働きの時期と場所について何と述べていますか。ヘブ5:5、6、9:11

『ヘブライ人への手紙』は、キリストの祭司としての働きがその受肉と苦難にかかっていることを明らかにしています。「厳密に言うなら、復活が終わるまではキリストを祭司と呼ぶことはできない。私たちはしばしば、ゲッセマネの園における嘆願をキリストの大祭司としての祈りと呼んでいる。しかし、これは『ヘブライ人への手紙』の神学に背くものである」（ウィリアム・G・ジョンソン『絶対的確信をもって』93ページ、1979年）。

キリストの潔白さは私たちにとってどんな意味を持ちますか。

木曜日

大祭司としてのイエスの務め

7月31日

「だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜になかった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか」(ヘブ4:16)。

NOTE

イエスの祭司職は独特なものです。イエスは犠牲であり、同時に仲保者です。このような特徴はほかのだれにもありません。イエスだけが私たちの身代わりとして死なれました。イエスだけが天の聖所における私たちの大祭司です。

さらに、イエスは独特な仲保者です。人であり神であるお方はほかにいないからです。この特徴のゆえに、イエスは天と地を結ぶ完全な架け橋です。

イエスの働きの結果もまた独特です。イエス以外に、永遠に救うことのできるお方はいないからです。永遠の命はただイエスによってのみ与えられます。

問7 このような偉大な大祭司が天で私たちのために仕えておられます。このことを知っている私たちはどのように応答すべきですか。

ヘブ4:14 ~ 16 _____

ヘブ10:22、23 _____

ヘブ12:1、2 _____

クリスチャンは大祭司なるイエスが世の終わりまで共にいてくださることを知っています。イエスは日ごとに彼らのために仕え、御自身の栄光の王国を打ち立てるために人間の歴史に終止符を打とうとしておられます。主が共にいてくださるという、この明るい展望は私たちの人生に意味を与えてくれます。私たちは神の子、キリストの兄弟です。キリストがそうであられたように、私たちも人々に仕えるために生きます。『ヘブライ人への手紙』が書かれたのは、最初にそれを読む人々を励ますためでした。それは現代の私たちにも同じ励ましを与えてくれます。

NOTE

『ヘブライ人への手紙』は、イエスの祭司職について教え、それを定義しています。パウロはイエスの祭司職をメルキゼデクの祭司職になぞらえていますが、だからと言って、レビの祭司制度と無関係なわけではありません。それぞれの祭司制度とのつながりがどうであろうと、天の聖所におけるキリストの奉仕は、そのどちらをも、はるかに超えるものです。

「信仰によって、地獄のようなサタンの影を突き破り、私たちのために幕の内に入られた大祭司なるイエスに信頼しよう。どのような雲が空を覆おうとも、どのような嵐が魂に押し寄せようとも、この^{いかり}錨はしっかりしているので、必ず勝利することができる」(『天上で』127 ページ)。

「コリントにある会堂で説教をし、モーセや預言者たちの書き物から説いて、聞く者たちを約束のメシヤの来臨へと導いている使徒パウロを見よ。あがない主が人類の大祭司として、ご自身の命を犠牲にすることにより、一度だけすべての者のために罪の償いをされて、それから天の聖所においてご自分の務めをなさる、その主のみわざをわかりやすく説くパウロに耳を傾けよ。パウロの言葉を聞いていた者たちは、自分たちの待望していたメシヤが既に来られたこと、キリストの死がすべての犠牲のささげ物の本体であったこと、また、天の聖所におけるキリストの務めは、背後にその影を持ち、ユダヤの祭司の務めを明らかにする、偉大な実体であるということを理解させられた」(『患難から栄光へ』上巻 265, 267 ページ)。

▽ミ/ニ/ガ/イ/ド▲

『ヘブライ人への手紙』の中のキリスト(4)——大祭司

『ヘブライ人への手紙』は、13章のうち9つの章が、大祭司キリストに言及しています。そのうち、5つの章はこのテーマに章全体を充てています。聖書66巻の中で、キリストの祭司職について、これほど色濃く述べられている書は、ほかにありません。

天の聖所のキリスト——ユダヤ人クリスチャンにとっての「現代の真理」
十字架によってキリストは、「四千年の間キリストの死をさし示してきた型と儀式の制度に終止符をうたれ」しました(『各時代の希望』下巻130ページ)。地上生涯最後の夜、聖餐式を制定された時、主はそれをはっきりと意識しておられました。

キリストの復活と昇天後、福音は急速に異邦人に対して拡大されていきます。そうした中でエルサレム会議が開かれ(使徒15章)、異邦人クリスチャンに対する儀式律法の免除が決議されます。

しかしユダヤ人クリスチャンにとって、神ご自身によって制定された犠牲制度が廃され、儀式律法の要求事項がもはや拘束力を持たないものとなったという主張は、受け入れがたいものでした。それは、彼らのアイデンティティーを根底から覆す^{くつがえ}ものだったからです。強烈な選民意識が、儀式律法がキリストのうちにその完全な成就を見た事実を認めるのを妨げていたのです。そればかりか、彼らは、異邦人クリスチャンにも、割礼等の慣習の遵守を強要します。

このような危機にあってパウロは、救いの手段としてこれらの儀式律法に依存することは、信仰による救いの祝福を無効にするものだと言います。しかも、彼らが頼みとしている神殿とその奉仕は、まもなく永遠にその幕を閉じることになります。この時に当たって、パウロは、ユダヤ人クリスチャンが、彼らの目を地上の祭司制度の代わりに神が定められた天の聖所における大祭司キリストと彼の奉仕に向けるよう訴えたのです。それはまさに、彼らにとって「目からウロコ」のメッセージであり、「現代の真理」でした。それは「あなたがたは決して見捨てられることはない」という、同族に対するパウロの渾身^{こんしん}の語りかけでもあったのです。



第6課

8月9日

『ヘブライ人への手紙』における 聖所の言葉

● 暗唱聖句 ●

「しかしキリストがすでに現れた祝福の大祭司としてこられたとき、手で造られず、この世界に属さない、さらに大きく、完全な幕屋をとり」
(ヘブル9:11、口語訳)

「けれども、キリストは、既の実現している恵みの大祭司としておいでになったのですから、人間の手で造られたのではない、すなわち、この世のものではない、更に大きく、更に完全な幕屋を通り」
(ヘブライ9:11、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

8月2日

中心思想 『ヘブライ人への手紙』は、聖所の言葉で満ちています。それらは、主が今、天で何をしておられるかを理解する助けを与えてくれます。

1989年12月、『月刊ムーディー』誌は次のように報じています。「[エルサレムの]嘆きの壁に近い二つのタルムード学校では、神殿の儀式の詳細について生徒たちに教えている。ほかの学者たちは祭司の系統に属する人々を特定するために年代記の研究を行っている。来年には、祭司の子孫たちの集会が計画されている。ユダヤ人活動家の団体である『神殿の丘忠誠会』は神殿から2キロ離れたところにある3トンの『隅石』を献納した。しかし、嘆きの壁の広場で儀式を行うことは警察によって禁止された」(74ページ)。

このように、神殿が破壊されてから久しいというのに、聖所とその儀式に対する関心はいまだ失われていません。今週は、人間の手によって造られたのではない、私たちが大祭司キリストが今おられる天の聖所の「垂れ幕の内側」をのぞいてみましょう。

今週の研究 『ヘブライ人への手紙』において、地上の聖所とその働きはどんな役割を果たしているか、それらは天の聖所で起こっていることについてどんなことを教えているか、また、天の真の聖所におけるキリストの働きの目的について学びます。

日曜日

地上の聖所(ヘブライ9章)

8月3日

『ヘブライ人への手紙』は、イエスが私たちの大祭司として天におられることを明言しています。パウロは旧約聖書の聖所と、この聖所で行われていた祭司の務めにもとづいて、その議論を展開しています。

NOTE

問1 ヘブライ9:1～3を読んでください。著者は何と述べていますか。この話題がキリストの大祭司としての務めの中に組み入れられているのはなぜですか。出25:8参照

問2 ヘブライ9:4、5と9:6、7を読んでください。パウロはそれぞれの箇所では何と述べていますか。

パウロは古代ヘブライ人の聖所の儀式について概観し、聖所の各部屋とそこで行われていた日ごと・年ごとの儀式について描写しています。つぎに8～14節で、キリストが天の聖所に入り、そこで大祭司としての務めを行っておられることについて述べています。

使徒の論点は、天の聖所におけるキリストの働きが地上の聖所における儀式に優るということです。しかしながら、地上の聖所における働きは天の聖所における働きと関係があることは明らかです。前者を理解することは後者を理解する助けになります。

『ヘブライ人への手紙』は聖所に対して二つの語を用いています。一つは“ハギオン”または“ハギア”で、もう一つは“スケーネー”です。初めの語は本来は形容詞で「聖なる」を意味しますが、名詞として用いられると「聖所」を意味します。「聖所」になるか「至聖所」になるかは文脈によります。あとの語は「天幕」または「幕屋」を意味し、旧約聖書に出てくる荒野の幕屋を連想させます。

出エジプト記とレビ記を開いて、聖所の建設、構造、儀式に関する部分を読んでみましょう。

NOTE

「今述べていることの要点は、わたしたちにはこのような大祭司が与えられていて、天におられる大いなる方の玉座の右の座に着き、人間ではなく主がお建てになった聖所また真の幕屋で、仕えておられるということです」(ヘブ8:1、2)。

使徒も読者も、旧約聖書とそこに記された儀式についてよく知っていたはずです。使徒がここで述べている聖所は、神によって導入され、モーセの監督のもとで建設された元の聖所です(出25～31、35～40章)。

問3 きこのの研究で見た要素のほかに、ヘブライ9章には地上の聖所の儀式のどんな側面が描かれていますか。

ヘブ9:9 _____

ヘブ9:10 _____

ヘブ9:21 _____

ここにはまた、聖所の基本的な器具のほかに、種々のいけにえや供え物をはじめ、そこで行われていた儀式のことが述べられています。著者は天の聖所の詳細にはふれていませんが、次の点を特に強調しているように思われます。それは、真の聖所が天にあって、イエスがその中で私たちのために仕えておられるということです。

問4 ヘブライ8:1、2を読んでください。著者は天の聖所の実在性について何と言っていますか。

地上の聖所、「供え物といけにえ」(ヘブ9:9) また「食べ物や飲み物や種々の洗い清め」(10節)に関するパウロの議論は、それ自体が目的ではなく、むしろ天の聖所に関する議論の序説となるものでした。『ヘブライ人への手紙』の目的は、神御自身の制定された地上の聖所に優る聖所が天にあり、イエスが祭司としてそこで仕えておられるということを読者に示すことにありました。

火曜日

犠 牲

8月5日

『ヘブライ人への手紙』は、イエスが私たちの大祭司として天の聖所で仕えておられる事実を明らかにしていますが、それだけではありません。著者はまた、犠牲についても語っています。

NOTE

問5 『ヘブライ人への手紙』の中では、どんな動物が犠牲として挙げられていますか。ヘブ9：12、13、19、10：4

問6 それらはどの献げ物を指し示していましたか。レビ1：5、4：3、16：3、民7：17

ヘブライ9、10章には4種類の動物の名が挙げられています。雌牛を除けば、それらは「雄山羊と若い雄牛」「雄山羊と雄牛」のように二つ一組で挙げられています。中でも雄山羊が最もよく出てきます。興味深いことに、黙示録によく出てくる小羊(ヨハ1:29、36、ペト1:19も参照)は『ヘブライ人への手紙』には出てきません。

旧約聖書のギリシア語訳である70人訳聖書は、民数記7:17で「和解の献げ物」に関連して雄山羊を用いています。『ヘブライ人への手紙』の雄牛に相当する牛が、レビ記1:6では「焼き尽くす献げ物」として、また同4:3では「贖罪^{しよくざい}の献げ物」として用いられています。ヘブライ9:13に出てくる雌牛は、民数記19章では和解の献げ物に関連して出てきます。ここで、赤毛の雌牛を焼いた灰が清めに用いられています。雄牛と雄山羊はまた贖罪日にも用いられました(レビ16章)。

このように、犠牲として用いられたさまざまな動物は、贖罪日を含む旧約聖書の基本的な献げ物について思い起こさせます。

しかし、これらすべての動物の犠牲は予備的なもの、不十分なものであって、罪から救うには無力なものでした(ヘブ10:4)。たとえそうであっても、血を流すことはやはり重要な意味を持っていました。なぜなら、それはただひとり赦しと和解をもたらすイエスを指し示していたからです。

NOTE

上記の聖句の中で、使徒はケルビム、祭司、大祭司、聖所で仕える人、仲介者に言及しています。「祭司」「大祭司」という称号はアロンの子孫とイエスを指しています。イエスは最高の祭司また大祭司であって、イエスの働きだけが罪の問題を解決します。ここでも、キリストとその働きが先行するすべてのものに優るといふ『ヘブライ人への手紙』の主題が述べられます。

“仕える”(レイトゥールゴス)という語はヘブライ1:7で天使に関して、また天の聖所で仕えておられるイエスに関して用いられています。イエスの務め(レイトゥールギア、ヘブ8:6)は本物の奉仕です。“仲介者”という語は『ヘブライ人への手紙』の中に3回出てきますが(8:6、9:15、12:24) イエスにのみ当てはまります。神と人類との仲介者はただひとり、イエス・キリストだけです。

問7 ヘブライ9:5のケルビムは地上の聖所の贖罪所に置かれた二つの黄金の像です。これらは何を象徴しますか。エゼ1:5~14、22~26、10:1、4、18~22、黙4:6~8参照

ケルビムは単なる架空の人物ではなく、神の御前に生きている現実の存在者です(創3:24)。彼らは天の聖所にあって宇宙の王に仕える守護者です。

「聖書のケルビムが天使の一階級を表していることには疑いの余地がない。彼らはあらゆる所で神に仕えている。ふつう、それは神のすぐ近くである。詩的、あるいは象徴的に、彼らは神を持ち運ぶもの、あるいは御座を守り、覆うものとして表されている」(『SDA 聖書辞典』改訂版 189, 190 ページ)

『ヘブライ人への手紙』は天使礼拝に強く反対しています(ヘブ1:5~14参照)。地上の聖所の至聖所に置かれていたケルビムに対応する天の存在者のことが語られていないのはそのためかもしれません。

木曜日

問題とその解決

8月7日

問8 次の各聖句を読み、それぞれが述べている共通のテーマについて考えてください。

NOTE

ヘブ 1 : 3 _____

ヘブ 8 : 12 _____

ヘブ 9 : 26、28 _____

ヘブ 10 : 12、17 _____

アダムとエバの墮落は神に対する人間の関係を変えました。その結果として生じた病気、苦しみ、死が地上の生命体に劇的な変化をもたらしました。しかし、罪のもたらした最大の悲劇は天と地の間に、また創造主と被造物の間に不和と断絶が生じたことでした。罪が私たち自身のうちに、また人間相互の間にもたらす悲劇はすべて、ここから来ています。罪は神と人間との関係を断ち切り、創造主と被造物との間に疎外と断絶をもたらしました。こうして、被造物は自らの存在と生命と目的の唯一の源から離れてしまいました。この断絶によって生じた結果は、子宮の中でヘその緒が断たれたときのそれよりも悲惨なものでした。なぜなら、被造物が罪のゆえに失ったものは肉体的なものにとどまらず、霊的なもの、さらには永遠のものにまで及んでいたからです。

イエス・キリストがこの世に来て、死に、いま私たちのために天で仕えておられるのは、この無限にして永遠の亀裂を修復するためでした。

『ヘブライ人への手紙』は天と地の間に生じたこの亀裂をいやしてくださる神について描写しています。それは、(犠牲によって象徴される)十字架上のキリストの死に始まり、天の聖所におけるキリストの奉仕に至るまでの救いの計画全体を概観しています。

実際、聖書が強調しているのは罪の問題ではなく、むしろ罪の赦し、罪からの解放、罪に打ち勝つ力といった罪の解決法についてです。『ヘブライ人への手紙』の中心テーマは清めです。神は私たちを赦すだけでなく、同時に私たちを清め、聖なる者にしようと望んでおられます。これらはすべて、イエスの優れた犠牲、優れた血、優れた奉仕のゆえに可能です。

NOTE

『ヘブライ人への手紙』は、聖所に関連した言葉で満ちています。実際、聖所の概念が書全体を理解する基礎を形成しています。神は、聖所の教えを通して、ご自身が私たちに近くいたいと望まれ、また私たちの内に住みたいと望んでおられることを示しておられます。イエスを通して、私たちは、今この時にも、天の王に近づくことができ、救いの確証を得て喜ぶことができるのです。

「キリストは天地創造の時から^{ほふ}屠られた小羊であった。旧約時代にはなぜこれほど多くの犠牲の供え物が必要であったのか、なぜこれほど多くの血を流すいけにえが祭壇に献げられたのかは、多くの人にとって神秘であった。しかし、人々が心に銘記すべき大いなる真理はこれであった。すなわち、『血を流すことなしには罪の赦しはありえない』ということである。すべての血を流すいけにえのうちに、『世の罪を取り除く神の小羊』が予表されていた。キリスト御自身がユダヤの礼拝制度の創始者であられた。その中に、霊的な天の事物が予型と象徴によって予表されていた。多くの人々はこれらの献げ物の真の意味を忘れている。キリストを通してのみ罪の赦しが与えられるという大いなる真理が忘れられている。いくら多くの犠牲を献げたとしても、雄牛や雄山羊の血は罪を取り除くことができなかった(『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』1893年1月2日)(『SDA 聖書注解』第7巻932, 933ページ、エレン・G・ホワイト注)。

【考えてみましょう】

ここまで学んできて、もしあなたが誰かに、「なぜ天におけるキリストの働きがそんなに重要なのですか」と尋ねられたとしたら、あなたは何かお答えになりますか。

▽ミ/ニ/ガ/イ/ド△

ガイドの著者は、6課から(7課をはさんで、8課、9課と)三課にわたって、聖所の問題を扱っています。対象となっている聖句は、主として8章と9章ですが、10章や6章、7章の一部も用いています。既述しましたように、聖書の流れにそって文脈をふまえながら学ぶのが最もわかりやすいと思われますが、著者は題目的に学びを進める手法をとっており、また原語(ギリシャ語)も出てきますので難解な部分もありますが、6～10章にかけて何度も読み返ししながら大意をつかむよう心がけてください。

『ヘブライ人への手紙』と聖所(1)

すでに指摘しましたように、パウロの心の重荷は、ユダヤ人クリスチャンの目を、影であり型であった地上の聖所とその祭司職から、本体である天の聖所とそこにおける大祭司キリストの働きに向けることでした。ここで再度確認しておきたいことは、この書の読者(ユダヤ人クリスチャン)は、旧約聖書の歴史と儀式律法、また聖所について精通していたということです。

転じて、新約時代以降に住む私たちは、彼らがすでに持っていた聖所に関する真理をしっかりと学ぶことによってはじめて、パウロの言わんとするところを理解することができます。その意味で、もう一度、出エジプト記25～27章、35～40章、レビ記1～9章、16章などを熟読されますようお願いします。あわせて『各時代の争闘』下巻23章(聖所とは何か)、24章(天の至聖所における大事件)、28章(天における調査審判)も助けになります。

聖所——「福音の縮図」

旧約聖書の中に啓示された聖所の儀式全体は、まさに福音の縮図です。それは、人間の救いのために、神がどんなにすばらしい備えをしておられるかという福音の中核を教えるとともに、罪が最終的にいかに処理されるかを詳細に示していました。それは十字架の影であったと同時に、救いの計画の最終局面までもを含む影でもありました。



イエスと契約

● 暗唱聖句 ●

「『わたしが、それらの日の後、彼らに対して立てようとする契約はこれであると、主が言われる。わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう』と言い、さらに、『もはや、彼らの罪と彼らの不法とを、思い出すことはしない』と述べている」

(ヘブル 10 : 16、17、口語訳)

「『それらの日の後、わたしが彼らと結ぶ契約はこれである』と、主は言われる。『わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにそれを書きつけよう。もはや彼らの罪と不法を思い出しはしない』」

(ヘブライ 10 : 16、17、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

8月9日

中心思想 『ヘブライ人への手紙』の重要な主題のひとつは、イエス・キリストによって開始された新しい契約です。

現代社会にあっては、さまざまな関係が契約によって規定されます。それによって、物であれサービスであれ、私たちは公平に利益にあずかることができます。たとえば、水道屋に蛇口の修理を頼むとき、私たちはお互いに契約書を交わします。水道屋は代金を受け取り、私たちは蛇口を修理してもらいます。

しかし、新しい契約はそのようなものではありません。この契約においては、神は私たちを必要とされませんが、私たちは神を必要とします。神は私たちに恵みと憐れみ、罪の赦しを提供されますが、私たちには提供するものが何もありません。神の与えてくださる恵み、憐れみ、赦しに値するものを何一つ持ち合わせていないからです。私たちにできることはただ信仰によってそれを受け入れることだけです。この信仰は愛から出たもので、真心からの服従をもたらします。

今週は、新しい契約について、またこの契約とキリストとの関係、さらにはこの契約と天におけるキリストの働きとの関係について、もう少し詳しく学びます。

日曜日

契 約

8月10日

NOTE

古代近東地方では、上位の権力者と下位の人民との関係は契約によって規定されていました(身分が同等の者同士の場合もある)。

異教の国々においては、これらの契約はふつう次のような要素を含んでいました。(1)支配者を紹介する前文、(2)それまで契約の当事者間に見られた関係についての歴史的な序文、(3)この契約によって構成される地域社会の状態についての記述、(4)契約の保護と定期的再読について規定した条文、(5)契約に立ち会った神々の一覧表、(6)契約に伴う祝福と呪い。

聖書に記されている契約も、ある程度、上記の典型的な契約と似たところがあります。

問1 次の各聖句は種々の旧約聖書の契約について記しています。それらに共通する要素は何ですか。その本質は何ですか。それらは神と神の民との関係についてどんなことを教えていますか。

創 6 : 18 _____

創 9 : 11 ~ 13 _____

創 15 : 18 _____

出 19 : 5 _____

エレ 31 : 31 ~ 34 _____

契約は非常に重要なものです。アブラハムの契約の場合は、神の絶えざる臨在についての約束、メシアがすべての民の祝福となられるという約束、それに土地と大いなる国民についての約束が含まれていました。

モーセの契約(シナイの契約)は、先の契約が拡大されたもので、イスラエルのすべての民に向けられていました。イスラエル人をエジプトから解放された後で初めて、神は恵み深くも彼らに御自分の契約を与え、彼らを神御自身の尊い財産、祭司の国、聖なる国民とすると約束されました。

契約の概念が聖書の神学の中で重要な意味を持つのはなぜですか。

NOTE

問2 ヘブライ 8:6 ~ 13 を読んでください。契約の概念が『ヘブライ人への手紙』の中で初めて紹介されている部分です。著者は新しい契約の必要性に関してどんな理由をあげていますか。

契約は『ヘブライ人への手紙』の中で突然出てくるわけではありません。初めの7章はイエスの祭司職とその正当性について述べていました。それから第8章で、著者は、新しい、さらに優れた祭司職と新しい、さらに優れた聖所とを必要とする、新しい、さらに優れた契約の約束について述べています。もちろん、これはイエスと天におけるイエスの務めをさしています。

問3 ヘブライ 13:20 と 8:6 を読んでください。新しい契約を描写するためにどんな形容詞が用いられていますか。その理由は何ですか。

古い契約と新しい契約は対照的に描かれていますが、両者の間にはいくつかの継続した要素が見られます。どちらの契約も当事者は同じです。つまり、神とその民です。どちらの場合も、神が主導しておられます。神だけがお救いになります。どちらの契約にも、約束と義務があります。そして、これは最も重要なことですが、どちらの場合も、神が御自分の民と共におられます。

一方、古い契約と新しい契約の決定的な違いは、新しい契約のもとでは完全な赦しと保証があることです。古い契約が型と影と象徴において示していたものは、イエスにおいて現実^{じじつ}に成就しました。新しい契約のもとでは、律法は内在化され、信者はキリストに対する信仰によって、今や心に記された律法に従って生きます。新しい契約は永続的^{じきじく}です。それは動物の血によってではなく、イエスの血によって批准^{ひしん}されました。

ヘブライ 8:8 ~ 12 にあるエレミヤ書からの引用を注意深く読み、神が新しい契約のもとで私たちに与えておられる約束と祝福について話し合ってみてください。

火曜日

契約と契約に関連した概念

8月12日

問4 契約は犠牲、祭司職、聖所とどんな関係にありますか。
ヘブ9:11～15

NOTE

神はイスラエルをエジプトから解放した後で、彼らに御自分の契約を与られます。彼らは、「わたしたちは、主が語られたことをすべて、行います」と答えます(出19:8、24:7)。神は約束について説明し、律法をお与えになります。それから、犠牲が献げられ、契約は血によって批准^{ひしゅん}されます(出24:8)。この契約にはまた、聖所の建設、祭司制度の確立、犠牲制度の制定が含まれていました(出25～31章)。このように、契約、犠牲、祭司職、聖所は一つのものでした。したがって、新しい契約は、新しい、さらに優れた犠牲と、新しい、さらに優れた祭司職と、新しい、さらに優れた聖所を必要とします。

問5 律法の内容は新しい契約とどんな関係にありますか。ヘブ8:10

『ヘブライ人への手紙』は律法、つまりここで争点となっているモーセの律法が変更される必要のあることを強調しています(ヘブ7:12)。なぜなら、ここで背景となっているのが明らかに、地上の聖所の儀式とその祭司制度だからです。これらはみな、キリストが実現されることの影でした(ヘブ10:1参照)。

一方、十戒は古い契約におけると同様、新しい契約においても有効です。新しい契約のもとでは、律法は廃止されるところが(ヨハ5:3)、心に書きつけられたのです(ヘブ8:10)。イエスはその生涯、新しい契約における律法を尊び、冷たい、生命のない規則となっていた律法を、より高い、霊的な次元にまで高められました。神が『ヘブライ人への手紙』の中で語っておられるのは、新しい律法ではなく、律法と福音を中心とした新しい契約です。

私たちのための身代わりの死を強調する新しい契約の中でも、なお律法が重要な意味を持つのはなぜですか。

NOTE

問6 『ヘブライ人への手紙』には、新しい契約にともなう祝福が強調されています。それらは何ですか。

ヘブ 8 : 10 ~ 12、10 : 16 ~ 18 _____

ヘブ 9 : 14 _____

ヘブ 9 : 12、15、28 _____

ヘブ 10 : 10、14 _____

新しい契約には「更にまさった約束」が含まれています（ヘブ 8 : 6）。新約聖書の中で『ヘブライ人への手紙』ほど“約束”という言葉の数多く含んでいる書巻はほかにありません。それは私たちにどんな約束を与えているのでしょうか。

新しい契約の約束には、神に近づく特権、やましいところのない良心、贖い、罪の赦しが含まれます。これらは、著者が「更にまさった約束」と呼んでいるものです。中でも最もすばらしい約束はエレミヤ書 31 : 34 にある最後の約束です——「わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない」。

問7 「わたしは……再び彼らの罪に心を留めることはない」という言葉を、あなたはどのように理解しますか。主はここで御自分の民にどのような約束を与えておられますか。

「新しい契約の祝福は、不義と罪を赦す憐れみにもとづいている。……心を低くして、自らの罪を告白する者はみな、憐れみと恵みと保証にあずかる。神は罪人に憐れみを示すことによって、義であることをやめられるのであろうか。神は御自分の聖なる律法を汚し、律法の違反を看過されるのであろうか。神は不変である。……さらに優れた契約において、私たちはキリストの血によって罪から清められる（『書簡』 276 号、1904 年）」（『SDA 聖書注解』第 7 巻 931 ページ、エレン・G・ホワイト注）。

木曜日

イエスと契約

8月14日

問8 イエスは契約に関連して何と呼ばれていますか。ヘブ7：22、9：15

NOTE

イエスは新しい契約の「保証」です。ヘブライ7：22とその文脈は祭司職と契約とを一つに結びつけています。イエスは『ヘブライ人への手紙』の中で3回、「仲介者」、つまり新しい、さらに優れた契約の仲介者と呼ばれています(ヘブ8：6、9：15、12：24)。ヘブライ7章はイエスを祭司として描いていますが、同8～10章はイエスを犠牲として描いています。このように、犠牲と契約と仲介者の間には密接な関係があります。

問9 ヘブライ7：22で言われている「保証」とは何を意味しますか。

「保証」という言葉は新約聖書のほかのところには出てきません。「これはパピルス文書において誓約あるいは保釈保証金を意味する言葉として法律文書の中に一般的に見られるものである。……聖書の言う契約は神の主導によってなされた合意であるから、保証(つまり、イエス)はこの契約が順守されることを保証する。……仲介者は仲立人であって、その務めは当事者を互いに交流させることにある。神が当事者の一方であり、人間がもう一方である場合には、契約の思想は必然的に不釣合なものとなる。欠陥はつねに人間の側にあるゆえに、仲介者の務めは、人間の前で神のために働くことでもあるが、主として神の前で人間のために働くことである」(ガスリ『ヘブライ人への手紙』165、166、174ページ)。

したがって、重要な点は、神が必ず契約の約束を守ってくださるということです。人間は失敗し、約束を破り、迷います。しかしイエスは契約の条件を必ず守ることを保証されます。

『ヘブライ人への手紙』はまた、良心の呵責^{かしゃく}に苦しんでいる読者、自分の赦しと救いに確信が持てない読者に助けを与えてくれます。彼らに必要なのは、神がイエス・キリストにおいて成し遂げてくださった恵み深い救いを理解することです。

NOTE

ヘブライ1～7章において、キリストが天使やモーセ、アロンにまさったお方であることを指摘した後で、使徒は、さらに話題を集中的に契約と聖所、犠牲に向けるに当たって、ヘブライ8:1, 2でこれまでの彼の議論を要約しています。8章以降で、彼はイエスが成し遂げられたことに焦点を当てています。契約は、私たちが神との特別な関係に導き、私たちの最も深い必要と問題に対する解決を提供します。ここで、他の箇所と同様、あの大いなるテーマ——「さらにまさった」(約束)が現れます。新しい、さらにすぐれた契約は、新しいさらにまさった祭司と聖所と仲介者(仲保者)を必要とします。私たちには、これらすべてが与えられているのです。

次の聖句にもとづいて、契約の思想について学んでください——マタ26:28、マコ14:24、ルカ1:72、22:20、使徒3:25、7:8。ヨハネは契約について語っていません。黙示録の記者ヨハネは契約の箱にしかふれていません(黙11:19)。

「神の民は『更にまさった契約』の施行によって、キリストの義によって義とされる。契約は一つの協定であって、当事者は自分自身に、また相互に、特定の条件を満たす義務を負う。こうして、人は神との協定に入り、御言葉に明示された条件に従う。彼の行動は、彼がこれらの条件を尊重しているか否かを示す。人は契約を順守される神に従うことによって、すべての物を得る。神の属性は人に分与され、人は憐れみと同情を表すようになる。神の契約は、神の品性が不変であることを私たちに確信させる」(『SDA聖書注解』第7巻932ページ、エレン・G・ホワイト注)。

「エデンであらわされ、シナイで布告され、新しい契約のもとに心にしるされる偉大な愛の律法は働く人間を神のみこころにむすびつけるものである」(『各時代の希望』中巻49ページ)。

▽ミ/ニ/ガ/イ/ド▲

『ヘブライ人への手紙』の中のキリスト(5)——契約の主

もう一度8～10章を精読してください。この手紙の差出人であるパウロが、ユダヤ人クリスチャンに強調していることは、いわば旧約から新約への移行です。契約の主体である神は変わりませんが、内容が更新されたのです。

「神のみ子の死によって、型が本体に合ったの」だと言っているのです(『各時代の希望』下巻 280 ページ)。

今まで自分たちが寄りかかってきたものが崩れ落ち、それとともに、彼ら自身の信仰もまた、糸の切れた^{たこ}罫のようにさまよっていた、まさに危機的な状況にあったユダヤ人クリスチャンに、パウロは、彼が摂理のうちに習得した最高の知識を駆使して、忍耐強く、切々と、しかも論理的に訴えます。8～10章でパウロが言っていることをまとめると、概略次のようになります。

- (1) 地上の聖所は、天の聖所の型として作られたものである。
- (2) 地上の聖所の本体は天にある。
- (3) 地上の聖所の儀式が象徴していた祭司(大祭司)のつとめは、今や、真の大祭司なるキリストの天の聖所でのつとめに取って代わった。つまり「型」が「本体」に合ったのである。
- (4) 罪をあがなう唯一のいけにえであるキリストの血により、今や、ゆるしの泉が無限に開かれている。
- (5) それゆえ、キリスト以外の罪のためのささげ物は、もはやありえないし、不要である。

これこそ、「新しい契約」の名のもとに、神が与えて下さる恵みである、とパウロは言います。「それで兄弟たち」とパウロが訴える10章19～39節までの箇所は、一連の聖所についての議論の結論部ともいうべきもので、圧巻中の圧巻です。

ここでパウロは、あきらめてはいけない、集会をやめてはならない、一度受けた光を拒んではいけない、信仰を捨ててはならない、と訴えています。今日も、彼の声の反響が聞こえませんか。



第8課

8月23日

イエスと聖所

●暗唱聖句●

「かつ、やぎと子牛との血によらず、ご自身の血によって、一度だけ聖所にはいられ、それによって永遠のあがないを全うされたのである」
(ヘブル9:12、口語訳)

「雄山羊と若い雄牛の血によらないで、御自身の血によって、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられたのです」
(ヘブライ9:12、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

8月16日

中心思想 『ヘブライ人への手紙』の中で、著者は、天の聖所におられるイエスを指し示します。

「聖所問題が、1844年の失望の秘密を解くかぎであった。それは、互いに関連し調和する真理の全体系を明らかにし、神のみ手が大再臨運動を導いてきたことを示し、そして、神の民の立場と働きとをはっきりさせて、今なすべきことを明らかにした」(『各時代の大争闘』下巻138ページ)。

天の聖所はアドベンチストの自己認識においてきわめて重要な役割を果たします。『ヘブライ人への手紙』に関する私たちの解釈をめぐるのは、様々な疑問が提示されています。今週は、天の聖所に関連して教会が直面しているいくつかの問題に注目します。

今週の研究 今週は、予型論について学びます。また地上の聖所と天の聖所のつながりについても考えます。『ヘブライ人への手紙』は、果たして、キリストが昇天において「天の至聖所」に入られたと教えているのでしょうか。『ヘブライ人への手紙』で強調されているのは、イエスが天のどの部屋に入られたかでしょうか。それとも、天の聖所で主が私たちのためにしておられる働きでしょうか。

日曜日

地上の聖所、天の聖所

8月17日

聖書のほかの書巻と同様『ヘブライ人への手紙』は予型論を用いています。予型論においては、実際の人物、出来事、制度などの、いわゆる「予型」が、より大いなる実在、つまり「原型」を表すために用いられます。言い換えるなら、予型は象徴のようなもので、象徴そのものにまさるあるものを表します。旧約聖書は予型で満ちています。その多くはイエス御自身において実現しました。イエスは彼を予表していたすべてのものにまさるお方です。

NOTE

問1 ヘブライ8:5と9:24には、地上の聖所と天の聖所の関連を示すどんな語が用いられていますか。これらの聖所は互いにどんな関係にありますか。

これらの聖句の中で「型」「写し」と訳されている語は、それぞれギリシア語の“トゥポス”と“アンティトゥポス”から来ています。地上の聖所は天の聖所にたとえられています。それは天の聖所の写しです。『ヘブライ人への手紙』においては、元のものが“トゥポス”(原型、ここでは天の聖所)と呼ばれ、それに対応するものが“アンティトゥポス”(予型、ここでは地上の聖所)と呼ばれています。一方はそれにまさるものの象徴です。

問2 ヘブライ8:5には、出エジプト記25:40が引用されています。地上の聖所を建てるとき、モーセはどんな型に従わなければなりませんでしたか。

ヘブライ8:5で、地上の聖所は天の聖所の「影」(ギリシア語で“スキア”)と言われています。9:9では、地上の聖所とその儀式が天の聖所の「比喩」あるいは「象徴」(また、「たとえ」と呼ばれています。9:23では、地上の聖所の儀式が天の聖所の儀式の“ヒュポデイグマ”(型、写し)と呼ばれています。どちらの場合も、要点は同じです。要するに、地上の聖所はより大いなるもの、つまり天の聖所の象徴に過ぎないということです。

NOTE

『ヘブライ人への手紙』をざっと読んだだけでも、次の2点が明らかになります。一つは、天の聖所が実在すること、もう一つは、天の聖所とその務めが重要な意味を持つことです。パウロは、この点について、最初の7章を要約して簡潔明瞭に述べています(ヘブ8:1、2参照)。要するに、イエスは私たちの大祭司として天の聖所で仕えておられるということです。

『ヘブライ人への手紙』の中で天と地上の聖所に対して用いられている最も一般的な言葉は、ギリシア語の“タ・ハギア”から来ていて、「聖〔所〕」「聖なる所」「聖なる物」を意味します。もう一つの言葉は“ハギア・ハギオン”(「聖の中の聖」)で、これはもっぱら「至聖所」をさします(ヘブ9:3)。

問3 次の聖句を読み、前後関係から判断して、それが「聖所」をさすものか、「至聖所」をさすものか、あるいは「聖所全体」をさすものか考えてください。ヘブライ8:2、9:1～3、8、12、24、25、10:19、13:11(いずれも“タ・ハギア”が用いられています)。

ある個所では、意味ははっきりしています。たとえば、ヘブライ8:2、9:1に出てくる「聖所」は聖所全体をさします。

ヘブライ9:2で、著者は第1の幕屋の中身にふれ、この幕屋を「聖所」と呼んでいます。前後関係から、これは地上の聖所の第1の部屋であることがわかります。

英語欽定訳で、「すべての中で最も聖なる〔所〕」(ハギア・ハギオン)と訳されているヘブライ9:3の言葉は、第2の部屋である「至聖所」だけをさします。興味深いことに、明らかに「至聖所」を意味するこの言葉は、天の聖所におられるキリストに関連して再び出てくることはありません。ここに一つの疑問が生じます。もし『ヘブライ人への手紙』が昇天において「至聖所」に入られたキリストについて教えているのなら、なぜ「至聖所」だけを意味するこの言葉が二度と用いられていないのか、ということです。

火曜日

天と地上の「聖所」(その2)

8月19日

NOTE

きのうは、聖所に関連のある数節に注目しました(ヘブ8:2、9:1~3)。今日は、前後関係から考えて、聖句が述べているのは「聖所」のことか、「至聖所」のことか、あるいは聖所全体のことに注目しながら、さらに数節学びます。

ヘブライ9:1~7において、著者は地上の聖所と、そこにおける日ごと・年ごとの儀式について描写しています。これらは天の聖所とその儀式の予型・影に過ぎませんでした。次に、著者は8節において、地上の聖所がなお存続しているかぎり、「至聖所」(英語欽定訳)への道はまだ開かれていない、と述べています。英語改訂標準訳では、地上の聖所がなお存続しているかぎり、「聖所」への道はまだ開かれていない、となっています。著者はここで、地上の聖所における儀式を、天の聖所における儀式と比較しています。それによって、地上の聖所が一定期間その機能を果たしたが、「至聖所」、つまり天の聖所への道がイエス・キリストの働きによって開かれたことを示しています。著者は聖所の部屋を比較しているのではなく、地上の聖所と天の聖所とを比較しているのです。

問4 ヘブライ9:9、10を読んでください。地上の聖所の儀式の一部としてどんなものがあげられていますか。

地上の聖所の儀式について述べた後で、著者は11節で再び、天の聖所全体をさす「更に大きく、更に完全な幕屋」(“スケーネー”、ギリシア語で「天幕」)に目を向けています。それから、12節で、再度「聖所」に言及しています。11節の幕屋(“スケーネー”)と12節の「聖所」は同じもの、つまり聖所全体をさしています(ヘブライ8:1、2で、これらのギリシア語は並行的に用いられています)。ここでの問題は、イエスがどの部屋に入られたかではなく、イエスが天の聖所における私たちの大祭司であるということです。

問5 ヘブライ9:24、10:19をそれぞれの文脈の中で読んでください。著者は天におられるイエスに関してどんな希望を与えていますか。

NOTE

問6 ヘブライ9:24～28を読んでください。再度、この手紙の前後関係を念頭において、著者がここで何を言っているのか考えてください。その主眼点は何ですか。聖所そのものですか。それともキリストの犠牲の死ですか。

ヘブライ9:25が贖罪日を扱っていることは確かです。大祭司が贖罪日に「至聖所」に入ったことも確かです(レビ16:15参照)。それゆえに、ある人たちは、ここに“タ・ハギア”(英語欽定訳では「聖所」と訳されている)が用いられていることは、それが「至聖所」をさす証拠であると主張します。

しかしながら、ここでは「聖所」と訳したほうがよいのです。というのは、贖罪日には、大祭司は両方の部屋で務めを行ったからです。大祭司の務めは第2の部屋に限定されたものではありませんでした。「聖所全体がこれらの儀式とかかわっているので、ここでは『聖所』と訳したほうがよい」(アルウィン・P・セーラム『ヘブライ人への手紙の問題点』227ページ、1989年)。

問7 出エジプト記30:10をレビ記16:30、16:16～19と比較して読んでください。贖罪日でさえ、大祭司が聖所全体において血を塗ったことが、どのように理解できますか。

ここまで見てきた聖句は非常に重要です。なぜなら、天におけるキリストの働きが二つの部屋、二段階に及ぶものであるという私たちの解釈に異議を唱える人たちがいるからです。批評家たちは、これらの聖句にもとづいて、キリストが昇天後、天の聖所の「至聖所」に入られたと独断的に主張することによって、私たちの聖所に関する教理、特にキリストが1844年に天の聖所の「至聖所」に入られたとする私たちの立場を無効にしようとしています。しかし、『ヘブライ人への手紙』は部屋の問題について述べているのではありません。重要なのは、キリストが私たちのために天におられるということです。

木曜日

地上と天の聖所の性質

8月21日

問8

すでに見てきたように、『ヘブライ人への手紙』における重要な論点は、キリストの天における務めが地上の聖所の務めに優るということです。次の各聖句は、間接的であれ、地上の聖所の性質について何と述べていますか。

ヘブ 8 : 2、9 : 24 _____

ヘブ 9 : 8 ~ 10 _____

ヘブ 9 : 11、12 _____

NOTE

地上の聖所が人の手によって造られたことが3回強調されています。それは神の命令によるものでしたが、造ったのは罪人である人間でした。天の聖所は主によって建てられたので、地上の聖所よりはるかに優れたものです。

地上の聖所の機能には、その永続性において、またその有効性において限界がありました。その儀式は罪の問題を解決することができませんでした。血を流すことには、永続的な効力がありませんでした。人間の良心は真に清められることがありませんでした。イエスの血と大祭司としての彼の働きだけが、真の、永続的な効力を持ちます。

問9

旧約時代の地上の聖所はどんな基本的な目的を持っていたか。出 25 : 22、29 : 43 ~ 46

荒野の幕屋が建てられたのは、神が御自分の民のうちにお住みになるためでした。そのときでさえ、罪が神に近づくことを妨げていました。『ヘブライ人への手紙』の福音は、イエスが父なる神に立ち返る道を開いてくださったことです。イエスを通して、私たちは神の御前に出ることができます。イエスの完全な義によって覆われているからです。イエスが御自分の死と働きによって道を備えてくださったので、私たちは謙虚な心をもって、しかし大胆に父なる神に近づくことができます。

NOTE

『ヘブライ人への手紙』は多くの箇所、地上の聖所の奉仕と、その原型であるキリストが仕えておられる天の聖所における奉仕を対照しています。『ヘブライ人への手紙』における論点は、イエスがどの部屋に入られたかではなくて、イエスが司祭であって、彼をとおして私たちは、宇宙の主と直接近づくことができるということなのです。

“タ・ハギア”に関しては様々な議論がありますが、『ヘブライ人への手紙』においては、それは明らかに全体としての「聖所」を意味するように思われます。

(1) ヘブライ 8:2 を読んでください。“タ・ハギア”が『ヘブライ人への手紙』の中で初めて出てくるところです。用法に注意してください。「人間ではなく主がお建てになった聖所〔タ・ハギア〕また真の幕屋〔スケーネー〕で仕えておられるということです」。この聖句は明らかに“タ・ハギア”を「幕屋」、つまり聖所全体を意味する“スケーネー”と同列に置いています。このように、初めから“タ・ハギア”の意味が定義されています。

(2) 繰り返しになりますが、『ヘブライ人への手紙』が問題にしているのは地上の聖所と天の聖所のことであって、キリストが天においてどの部屋に入られたかではありません。したがって、“タ・ハギア”を「聖所」と理解の方が自然です。

(3) ヘブライ語聖書のギリシア語訳における“タ・ハギア”に関する最近の研究によれば、“タ・ハギア”が聖所に関連して用いられている場合には、それは一貫して聖所全体をさすことがわかっています。

▼ミニガイド▲

『ヘブライ人への手紙』と聖所(2)

『ヘブライ人への手紙』の中で、パウロは、キリストが昇天後、天の聖所の第一の部屋(聖所)にお入りになったか、それとも第二の部屋(至聖所)に入られたのか、明確には述べてはいません。むしろキリストが行かれたのは『天の高い所におられる大いなる方の右の座』(1:3)、『(神の)玉座の右の座』(8:1)、『神の右の座』(10:12)であり、『天そのもの』(9:24)でした。

つまり、パウロが第1世紀のユダヤ人クリスチャン(ヘブライ人)に何よりも強調したかったことは、古い制度(旧約の犠牲制度)はキリストにおいて成就し、それらは、キリストという、さらにまさったいけにえ、より優れた大祭司、より優れた聖所に取って代わられたのだ、ということです。だからあきらめてはいけない、確信を放棄してはならない、希望をもって天を仰ぎなさい、と彼は訴えているのです。そこに『永遠の救いの源』であり、憐れみ深い忠実な大祭司キリストがおられる、だから喜びなさい、主を讃美しなさい、と勧めているのです。

パウロはさらに進んで、信徒たちに、『大胆に恵みの座(古い契約における儀式では至聖所の贖罪所のおおいにあたります)に近づくように(4:16) また『垂れ幕の内側に入っていく』(6:19)ように、チャレンジを与えています。

これは、混迷する今の時代に生きる私たちSDAのクリスチャンにとって、も大きな励ましではないでしょうか。天の至聖所で最後の奉仕をしておられる主は、私たちの救いの完成のために、私たちに「有利になる」裁きをしてくださっておられます(ダニエル7:22、口語訳、新改訳、英語訳参照)。ハレルヤ!

今週の研究はギリシャ語がたくさん出てきて忍耐を要するものですが、8～9章を熟読して、著者の論点をつかむように心がけられるとよいと思います。



イエスの働きと聖所

● 暗唱聖句 ●

「彼は、ほかの大祭司のように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために、日々、いけにえをささげる必要はない。なぜなら、自分をささげて、一度だけ、それをされたからである」 （ヘブル7：27、口語訳）

「この方は、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを献げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ一度、御自身を献げることによって、成し遂げられたからです」 （ヘブライ7：27、新共同訳）

安息日午後

今週のテーマ

8月23日

中心思想 『ヘブライ人への手紙』は、地上の聖所における日ごとの務めと年ごとの務めを通して、一つの真理を教えています。すなわち、それは、イエスを通して、わたしたちは父なる神にへだてなく近づくことができる、ということです。

『ヘブライ人への手紙』に出てくる聖所の言葉についてはすでに学びました。著者が古い制度についてよく知っていたことも学びました。地上の聖所は天にある本物の聖所の影です。本物の聖所に加えて、本物の犠牲があります。それはあらゆる動物の犠牲に優るもので、人類の罪を贖います。さらに、本物の祭司職があります。

『ヘブライ人への手紙』には、贖罪日を暗示する言葉（隠喩）がいくつか出てきます。それらは何を教えているのでしょうか。

今週は、セブンスデー・アドベンチストにとって特に重要な意味を持ついくつかの聖句と問題点について考えます。

今週の研究 『ヘブライ人への手紙』が日ごとの奉仕と年ごとの奉仕について語っている理由について、また、「垂れ幕の内側」という表現が何を意味するかについて学びましょう。

日曜日

日ごとの務め

8月24日

NOTE

「以上のものがこのように設けられると、祭司たちは礼拝を行うために、いつも第一の幕屋に入ります。しかし、第二の幕屋には年に一度、大祭司だけが入りますが、自分自身のためと民の過失のために献げる血を、必ず携えて行きます」(ヘブ9:6、7)。

著者は明らかに、旧約聖書の荒野の聖所とその犠牲制度を、^{ひな}雛形、^{がた}予型として用いています。その目的は天の聖所におけるキリストの働きを明らかにするためでした。パウロは地上の事物を用いて天の事物を説明しようとしたのです。

こうして、パウロは旧約聖書の予型にしたがって、幕屋の第一の部屋、つまり聖所における働きと、第二の部屋、つまり至聖所における働きとを区別しているのです。聖所において、祭司と大祭司は日ごとに、民の罪を贖うために犠牲を献げました。至聖所において、大祭司は最終的な贖いをなし、聖所を罪から清めました(レビ16章)。日ごとの務めは個人的な罪の清めのため、また年ごとの務めは集団、つまり国民全体の罪の清めのためでした。

問1 ヘブライ9:7は、無知や不注意によって犯した罪でさえ贖われる必要があったことを示しています。これは何を教えていますか。

問2 ヘブライ7:26、27、10:11、12は、日ごとの犠牲をキリストの犠牲と比較することによって、どんな一つの点を明らかにしていますか(ヘブ9:28も参照)。

『ヘブライ人への手紙』に含まれている福音の中でも、これらの聖句に含まれている福音は最も素晴らしいものの一つです。それは、イエスの犠牲が十分に完全なものであったと教えています。これ以上、血が流される必要はありません。これ以上、罪を贖うための死は必要ではありません。キリストの死だけで十分でした。

NOTE

『ヘブライ人への手紙』は、日ごと(あるいは、第一の部屋)の務めからの比喻に加えて、年ごとの務め、つまり贖罪日からの比喻を用いています。贖罪日は1年の締めくくりとなる聖所の儀式でした。これは別に不思議なことではありません。というのは、地上の聖所から基本的な予型を引用している書巻が、最も厳粛な聖所の儀式の一つを無視することはありませんからです。

問3 贖罪日はヘブライ 9 : 7 のほかに、9 : 25、26、10 : 1 ~ 4 でも言及されています。日ごとの務めの場合と同様、これらの聖句はおもにどんなことを教えていますか。

問4 贖罪日を暗示するもう一つの聖句はヘブライ 9 : 23 です。この聖句の前後関係から考えて、清められる必要のある「天にあるもの」とは何を意味すると思いますか(9章全体を読んでください)。

聖所の奉献について述べた後で、地上にあるもの(つまり、地上の聖所とそこにあるすべてのもの)が清めを必要とするように、「天にあるもの」(天の聖所)も清めを必要とすることが、ここで語られています。例外が一つあります。それは、天の清めが「まさったいけにえ」を必要とするということです。贖罪日における聖所の清めを描写するために、レビ記6章で「清められる」という語が用いられているのも偶然ではありません。著者はこの地上の儀式を、天にある、さらにまさったものの象徴として見ています。

『ヘブライ人への手紙』はこの点に関して詳しく述べていません。また、これらの「天にあるもの」が清められる時期に言及していません(たとえば、十字架においてとか、1844年に始まる、とか)。しかし、天には聖所があり、それが「清められる」必要があるというアドベンチストの教えを支持しています。あなたはこの聖句を、私たちが唱えている1844年の聖所のメッセージとの関連においてどのように理解しますか。

火曜日

「垂れ幕の内側」

8月26日

問5 ヘブライ6:13～20を読んでください。著者は読者にどんな希望を与えていますか。この部分は何について述べていますか。

NOTE

「垂れ幕の内側」という言葉に関しては、多くの議論があります。この言葉がもっぱらヘブライ語聖書の至聖所に対して用いられていることから、ある人々はこの聖句を用いて、イエスが〔昇天後〕天の聖所の至聖所に入れたと主張します。これは1844年のメッセージを無効にするものです。

問6 著者はヘブライ9:3において、地上の聖所と至聖所の間の垂れ幕に言及して「第二の垂れ幕」という言葉を用いています。ヘブライ6:19との違いについて、あなたはどのように思いますか。

著者がこの聖句によって意図したのは明らかに第二の垂れ幕、つまり至聖所の前にかかっていた内側の垂れ幕でした。事実、ヘブライ6:19、20の文脈には贖罪日を示唆するものは何もありません。明らかに、この言葉は『ヘブライ人への手紙』の全体的文脈から考えると、私たちが天の聖所におられる神にいつでも近づくことができることを示唆するものです。

繰り返しますが、著者は旧約聖書の比喻を用いて、キリストの死と大祭司の務めの大きいなる有効性に関する真理を教えているのです。それは、古い、不十分なレビの制度とは対照的に、「魂にとって頼りになる、安定した^{いかり}錨」のようなものです。

贖罪日の犠牲を含むすべての犠牲が十字架上のイエスにおいて実現したことには疑いの余地がありません。しかし、この言葉（垂れ幕の内側）だけをとらえ、それに集中するなら、『ヘブライ人への手紙』の主旨からそれることになります。この手紙の主旨は、イエスによって、神と人間との間のすべての障壁が取り除かれたこと、私たちが今やキリストの死と仲保によって父なる神にいつでも近づくことができるということにあります。

NOTE

「それでまた、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことがおできになります」(ヘブ7:25)。

上記の聖句の中に、『ヘブライ人への手紙』の中心テーマが述べられています。つまり、神は「御自分(イエス)を通して神に近づく」人たちを完全に救うことがおできになるということです。

私たちはこの手紙の目的を心にとめる必要があります。パウロは読者に、古い生き方に逆戻りしてはならないと言っています。新しい生き方は、はるかに優れたもの、古い生き方によっては達成できないものを与えてくれます。新しい生き方は神に近づく機会を与えてくれます。それは以前にはありえなかったことです。イエスを通して初めて可能になるからです。

問7 イエスを「通して」神に近づくとはどんな意味ですか。

私たちが神に近づくのは、私たちの大祭司であるキリストを通してです。しかし、どのようにしてそれが可能になるのでしょうか。罪人である私たちはどのようにして聖なる神に近づくことができるのでしょうか。

もちろん、私たちは(今は)神の御前に立つことができません。しかし、その必要はないのです。私たちの代わりにイエスがそうしてくださるからです。イエスとその完全な生涯のゆえに、私たちに代わって、父なる神の御前に立ってくださるのです。それはイエスの功績によるものであって、私たちの功績によるものではありません。イエスだけが神の御前に立つにふさわしい完全な義を備えておられます。

古い契約の日ごと・年ごとの儀式において、祭司は聖所の中で神の御前に出ました。同じように、イエスは天の聖所において私たちに代わって神の御前に出られます。イエスは私たちの代表者として、私たちにできないことを私たちに代わってしてくださるのです。

木曜日

私たちの天の仲介者

8月28日

問8 次の聖句を読み、それらが私たちにとってどんな意味を持つか考えてください。仲介者とは何ですか。私たちに仲介者が必要なのはなぜですか。

テモ 2 : 5 _____
 ヘブ 8 : 6 _____
 ヘブ 9 : 15 _____
 ヘブ 12 : 24 _____

NOTE

仲介者としてのイエスは、犠牲また、大祭司としてのイエスと切り離すことのできないお方です。イエスはその完全な生涯と犠牲のゆえに、いま天にあって私たちの大祭司また仲介者として神の御前に立っておられます。

古い契約においては、祭司はいけにえの血を取って、地上の聖所に携えて行きました。祭司は人々の代表者として、彼らの行くことのできない所まで行きました。祭司は日ごとの務めにおいて毎日、年ごとの務めにおいて毎年、このようにしなければなりませんでした。

一方、新しい契約においては、地上の、罪深い祭司の代わりに、私たちには「更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約」の仲介者であるイエスがおられます。罪人は今日、犠牲の動物を手に入れる必要がありません。それを地上の聖所に連れてくる必要もありません。同じ罪人である祭司の手によって、その血を献げてもらう必要もありません。イエスが私たちに代わってすべてをしてくださるのです。私たちはイエスによって、どんな時でも、どんな所でも、神に近づくことができます。

私たちは罪を犯すとき、その罪を告白します。イエスは御自身の功績、御自身の完全な義のゆえに、「わたしたちのために神の御前に」立ち、私たちの義ではなく、御自身の義をもって私たちを擁護してくださいます。この義はイエス御自身が地上において私たちのために完成されたもので、信仰によって私たちのものとなります。要するに、イエスは御自身の完全な生涯と死の功績を私たちのために適用してくださるのです。罪人である私たちが神に受け入れられる方法はこれ以外にありません。

NOTE

『ヘブライ人への手紙』は、古い契約の聖所における奉仕をモデルとして用いながら、日ごとの奉仕と年ごとの奉仕について説明しています。それらすべては、天における私たちの仲介者であり、大祭司であられるイエスの内に与えられている、さらに大いなる、すぐれた望みを指し示しています。

「すべてが恐怖であり、混乱である。祭司はまさにいけにえを殺そうとしている。しかしそのナイフは感覚を失った手から落ち、小羊は逃げ去る。神のみ子の死によって、型が本体に合ったのである。大いなるいけにえがささげられたのである。至聖所への道が開かれている。新しい、生きた道がすべての人のために備えられる。罪を悲しむ人間は、もはや大祭司が出てくるのを待つ必要はない。これからは救い主がもろもろの天の天において祭司また助け主として務めを行われるのである（『各時代の希望』下巻280ページ）。

「神は神殿の垂れ幕を裂くことによって、次のように言われた。『わたしはもはや至聖所においてわが臨在を現すことをしない』。垂れ幕のかかっていない新しい、生きた道なるイエスが、すべての人に提供されている。罪深く、悲しんでいる人類は、もはや大祭司の来るのを待つ必要はない（『SDA聖書注解』第5巻1109ページ、エレン・G・ホワイト注）。

もっと深く学びたい方へ

『私を生かす信仰』（英文）188～212ページを読んでください。

▼ミ/ニ/ガ/イ/ド▲

『ヘブライ人への手紙』の中のキリスト(6)——天にいます主

『各時代の希望』下巻の第82章(「なぜ泣いているのか」)の中に、次のような言葉があります。

「大きな石でとざされ、ローマの封印をされたヨセフの新しい墓を見ると彼らに告げなさい。キリストはそこにおられない。からっぽの墓を見るな。望みなく、助けなき者のように嘆くな。イエスは生きておられ、彼が生きておられるがゆえにわれわれも生きるのである。感謝の心で、聖なる火にふれたくちびるで、キリストはよみがえられたとよろこばしい歌をひびかせなさい。主は生きてわれらのとりなしをしてくださる。この望みをとらえなさい。そうすれば、それはたしかな、あてになる^{いかり}錨のようにわれらの魂をつなぎとめるであろう」(329ページ)

天の聖所にいますキリスト——永遠に変わらない大祭司、今も生きてとりなしておられ、彼によって神に近づく者を完全に救われるお方——を信仰によってとらえたときに、それは、ユダヤ人クリスチャンたちにとって、魂を不動にする錨となりました。

ここに「キリストの御名によって祈る」ことの深い意味があります。新しい契約の時代に生きる私たちも、いいえ、私たちはなおおらのこと、天の聖所で私たちのため、また人類の救いのために仲保のわざをしておられる生けるキリストに信仰の目を向けさせる必要があります。

私は、『各時代の争闘』(初版第1刷)の214ページと215ページの間に挿入された絵(残念ながら後年のものにはありません)が好きです。ハリー・アンダーソンによって、調査審判(再臨前審判)において天の法廷に呼び出された「私」が描かれています。「私」は神の聖なる律法の前に立っています。そこには私の生涯の記録の書を携えた天使もいます。しかし、何がすばらしいと言って、そこにキリストがおられ、私のために、ご自身の義をもってとりなしをしておられます。自分の罪深さを意識するとき、この絵を見て励まされ、新たな希望が湧いてきます。「真に罪を悔い改め、キリストの血が自分達の贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる」(前掲書215ページ)。何という恵みでしょう。



われらの犠牲・救い、イエス

● 暗唱聖句 ●

「彼は一つのささげ物によって、きよめられた者たちを永遠に全うされたのである」
(ヘブル 10 : 14、口語訳)

「なぜなら、キリストは唯一の献げ物によって、聖なる者とされた人
たちを永遠に完全な者となさったからです」
(ヘブライ 10 : 14、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

8月30日

中心思想 イエスは私たちを救うために、みずから進んでご自分の命を捨て、最高の犠牲となりました。彼の犠牲は、ほかのすべての犠牲にまさるものです。

「イエスは飢えることによってその働きを開始されたが、なおも命のパンである。イエスは渴くことによって地上における働きを終えられたが、なおも生きた水である。イエスは疲れ果てられたが、なおも私たちの安息である。イエスは貢ぎ物を払われたが、なおも王である。イエスは悪霊に取りつかれていると非難されたが、なおも悪霊を追い出された。イエスは涙を流されたが、なおも私たちの涙をぬぐってくださる。イエスは銀貨30枚で売り渡されたが、なおもこの世を救ってくださった。イエスは小羊として屠殺人のもとに連れてこられたが、なおも良い羊飼いである。イエスは死なれたが、なおもその死によって死の力を滅ぼされた」(ナジアンゾスの聖グレゴリオス、紀元 381 年)。

これまでの研究でも、ある程度イエスの犠牲について学んできました。今週は、『ヘブライ人への手紙』に述べられているイエスの犠牲に関する重要な思想についてもう少し詳しく学びます。

日曜日

血の重要性

8月31日

「雄牛や雄山羊の血は、罪を取り除くことができないからです」
(ヘブ10:4)。

NOTE

問1 地上の犠牲制度において用いられていた動物の血が罪を
「取り除く」ことができなかったのはなぜですか。

「血」を意味するギリシア語は『ヘブライ人への手紙』に21回出てきますが、そのほとんどは9章に集中しています。ヘブライ9:7に始まる血の主題は9章の中心的な主題となり、18節から章の終わりにかけて絶えず繰り返されています。また、ヘブライ9:22には「血を流す」という独特の表現が用いられています。

問2 以下の聖句は血に関して何と述べていますか。血が重要な
ものと考えられているのはなぜですか。

ヘブ9:7、18～22 _____

ヘブ12:24 _____

新しい契約と同様、古い契約は血によって批准^{ひじゅん}されました。ヘブライ9章の「契約の血」は古い契約をさしますが、同10～13章はイエスの血と新しい契約に焦点を合わせています。

ヘブライ9:7、18、22には「……なしには」という語が含まれています〔英語聖書参照〕。古い制度においては、大祭司は血を携えること「なしには」至聖所に入ることができませんでした。古い契約は血「なしには」始まりませんでした。血を流すこと「なしには」赦しはありません。血は不可欠です。

ヘブライ9:7～14は、動物の血を献げることとイエスの血を献げることとを対比し、それによって古い制度の限界を明らかにしています。ヘブライ9:18～21は、契約と旧約の聖所の発足に関連して、血の重要性を強調しています。最後に、ヘブライ9:22は基本的な原則について述べています——罪の赦しは血、すなわちイエスの血を流すことによってのみ可能です。イエスの血だけが罪から清める究極的な力を持ちます。

NOTE

私たちは血に対して否定的な考えを抱きがちです。それが暴力、死、戦争などを連想させるからです。しかしながら、『ヘブライ人への手紙』においては、血は非常に肯定的な意味を持ちます。

問3 イエスは御自分の流された血によって何を成し遂げられましたか。

ヘブ 9 : 12 _____

ヘブ 9 : 14 _____

ヘブ 13 : 12 _____

問4 上記の聖句に述べられている内容を要約してください。これらのキリストの御業はあなたにとってどんな意味を持ちますか。

「キリストの血は命を与え、希望を与える。それは人間を罪の苦境から救うという神の永遠の目的を完全に成し遂げる。……新約聖書の中で『ヘブライ人への手紙』ほど、カルバリーの地位を高める書巻はほかにない。それはキリストの血の究極性と十全性に関するメッセージを旧約聖書と著しく対照的な言葉で説明しているので、信者はみな絶対的な確信を抱くことができる（ジョンソン『絶対的確信をもって』112, 114 ページ）。

問5 ヘブライ 10 : 29 を読んでください。この手紙に述べられている希望に照らすとき、この聖句はどんな意味を持ちますか。

イエスの血は清めます。それは罪人と聖所を清め（ヘブ 9:14）救いをもたらします。しかし、もしイエスの血がそれを受け入れる人たちを清め、救うとすれば、それを拒む人たちはその結果、すなわち永遠の滅びに直面しなければなりません。イエスは私たちが永遠の命の源である御自身から離れることを望まれません。

火曜日

キリストのいけにえ(ヘブ10:12)

9月2日

NOTE

『ヘブライ人への手紙』9章はおもに血の概念について述べていますが、10章では「いけにえ」「献げ物」「献げる」という言葉が多用されています。10章の前半は、古い契約のいけにえの不十分さについて論じています。10節以降では、イエスの一度限りのいけにえが古い幕屋における儀式と対比されています(ヘブ10:10～18参照)。

すでにふれたことですが、重要なので繰り返します。キリストのいけにえは一度限りのものでした。このいけにえは、旧約の制度におけるように、何度も繰り返す必要がありませんでした。

問6 キリストが一度だけ死なねばならなかった事実を『ヘブライ人への手紙』が強調しているのはなぜだと思いますか。キリストの一度限りのいけにえが旧約の制度にまさるのはなぜですか。

イエスはいけにえとして一度だけ御自身を献げられました。つまり、イエスは私たちが自らの罪のために受けるべき刑罰を私たちに代わって受けられたのです。彼は私たちのために犠牲となりました。罪は死をもたらします。しかし、イエスは私たちに対する愛のゆえに、私たちに代わってその死に直面されました。彼は私たちの受けるべき刑罰を受けられました。これがイエスの犠牲の本質です。

ご自身を献げられたと言われていますが(ヘブ9:28)、ほかの聖句によれば、それは自発的なものでした。ヘブライ9:14には、イエスは「永遠の“霊”によって、御自身を傷のないものとして神に献げられた」とあります(ヘブ10:12参照)。これらの聖句は、イエスが恥辱と苦難と死を自発的に受け入れられたことを示しているように思われます。

重要なのは、イエスの犠牲が十二分なものであったということです。それは一度だけ献げられたいけにえです。その結果、私たちは聖なる者、完全な者とされ、赦しにあずかります(ヘブ10:10、14、18)。

NOTE

神の救いの行為は様々な方法で描写されています。聖書は、たとえば「義認」「贖い」「贖罪」「身受け」「キリストにあって」といった様々な象徴や表現を用いて、一つの同じ結果について描写しています。もう一つの表現が『ヘブライ人への手紙』の中で強調されている「清め」の思想です。

問7 ヘブライ1:3、9:13、14、22、23、10:2、22を読んでください。それらは汚れと清めについてどんなことを教えていますか。

義認は、人が義と宣告される法的な過程を描いています。贖いは、何かが「買い戻される」方法を説明しています。赦しは負債の返済を暗示します。しかし、清めは不浄や汚れの除去を示唆します。そして、『ヘブライ人への手紙』は人類が清めを必要としていると教えています。

「清め」の思想が最初に出てくるのは手紙の冒頭においてです。まずイエスを創造主として紹介した後、その御業にふれ、御子が初めに「人々の罪を清められた」と述べています(ヘブ1:3)。このように、清めは手紙全体の基調となっています。

「キリストはその贖いによって、第1に、罪全般を清められた。この御業は十字架上の犠牲によって可能となったが、最終的には宇宙を罪から清める結果となる。第2に、個人を罪から清められた。この御業も十字架によって可能となったが、なおも進行中であり、最後の魂が救われるまで完結しない」(『SDA聖書注解』第7巻397ページ)。

「人は汚れから贖われるのではない。それは、汚れを赦され、汚れと和解し、あるいは汚れにかかわらず義とされるのではないのと同じである。もし人が汚れたなら、清められねばならない。汚れや墮落が除去されねばならない。そして、『ヘブライ人への手紙』の著者は主張する。この清めは血、比類ない清めの力であるキリスト御自身の血による、と」(ウィリアム・ジョンソン『ヘブライ人への手紙の争点』89ページ、1989年)。

木曜日

私たちの創始者また完成者、イエス

9月4日

「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもちとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです（ヘブ12：2）。

NOTE

ヘブライ12：1～4を読んでください。この部分が信仰の勇者について記した有名なヘブライ11章のすぐ後に来ていることに注目してください。

問8 ヘブライ12：1で、著者はキリスト者の生涯を「競走」にたとえています。信仰によって生きるという文脈の中で、この言葉をどのように理解したらよいでしょうか。

著者は、まず読者の関心を様々な聖書の人物に向け、続いて「信仰の創始者また完成者」であるイエスに向けています。「創始者」という言葉はまた、「考案者」「創設者」「先駆者」を意味し、「完成者」は「完結者」を意味します。このことからわかることは、私たちの救い、信仰、確信、個人的清めはすべてイエスから来るということです。イエスは私たちの救いを開始し、それを完成してくださいます。それはすべてイエスに依存しています。イエスにおいて、私たちの贖いは完成しました。私たちのなすべきことは、信仰をもってイエスに信頼し、信仰によって生き、イエスの力によって耐え忍ぶことです。

この部分の前後関係、また『ヘブライ人への手紙』全体の内容からも明らかなように、私たちがイエスに協力するときに初めて、イエスは私たちのうちに働くことがおできになります。

問9 ヘブライ12：2～4を注意深く読んでください。著者はここで何と言っていますか。イエスの生涯と働きのどんな点に読者の関心を向けていますか。また、特にどんな点を強調していますか。

NOTE

かつてある人が次のように書きました。「もしわれわれの最大の必要が情報であるなら、神はわれわれのために教育者を送られたであろう。もしわれわれの最大の必要が科学技術であるなら、神は科学者を送られたであろう。もしわれわれの最大の必要がお金であるなら、神はわれわれに経済学者を送られたことであろう。もしわれわれの最大の必要が楽しみであるなら、神はわれわれに芸能人を与えられたであろう。しかし、われわれの最大の必要は、赦しであった。そこで、神はわれわれに救い主を与えられたのである」(作者不詳)

『ヘブライ人への手紙』は、キリストという一度限りの犠牲を強調することによって、私たちの救い主が何をしてくださったかを教えています。

「私たちの救い主は聖所におられる。……救い主は私たちのために執り成す大祭司であって、私たちのために贖いのいけにえを献げ、御自身の血の効力をもって私たちのために嘆願しておられる。両親は自分の子供たちにこの救い主を示し、彼らの心に救いの計画を教えなければならない。……神の独り子が正義を満たすために、また神の律法を擁護するために、人の反逆のゆえに御自身の命を献げられた事実を絶えず子供たちと青年たちの心に示すべきである。……キリストが苦難に遭われたのは、彼に対する信仰を通して私たちの罪が赦されるためであった。キリストは人の身代わり、また保証となられた。彼は全く無実であったのに、刑罰を受けられた。刑罰を受けるべき私たちが解放され、神に従う者となるためである。……キリストは私たちの唯一の救いの希望である。……人は悔い改め、心から罪を悔い、神の贖いのいけにえとしてのキリストを信じ、神が人と和解されたことを悟る」(『キリスト教教育の原理』369 ページ)

もっと深く学びたい方へ

聖書語句辞典で「救う」「救い」「救い主」を引いてみてください。また、『ローマの信徒への手紙』が救いについて何と教えているか調べてください(ロマ5:9、10、8:24、9:27、10:9、13、11:14、26)。

▽ミ/ニ/ガ/イ/ド▲

『ヘブライ人への手紙』の中のキリスト(7)——われらの犠牲

聖書の宗教は、ある意味で「血」の宗教です。しかも「命に至らせる血」の宗教です。

アダムの墮落後に神ご自身によって定められた犠牲制度(創世記3:21)に始まり、救いの計画がより組織的かつ包括的に示された聖所の儀式に至るまで、それらの儀式の中心に、いつも「血」がありました。その根底には、宇宙の大問題である「罪」の問題があることは言うまでもありません。すなわち、罪の問題の解決のために「血」は不可欠でした。そして『血は命』(申命記12:23)です。

人類歴史の当初から繰り返された、文字通り血なまぐさい儀式を通して、罪の忌まわしさと、犠牲の動物とその血が指し示すメシア(キリスト)の代償死が教えられました。

黙示録の記者ヨハネは、その序文に、『わたしたちを愛し、御自分の血によって罪から解放してくださった方に……栄光と力が世々限りなくありますように』(1:5~6)と述べていますが、実に、聖書は、創世記から黙示録まで、全体が罪の唯一の解決としてのキリストの「血」を描いています。

この「血の宗教」の本質を、旧約と新約とのつながりの中で最も体系的に提示しているのは、ヘブライ9章、10章と言えるでしょう。そこでパウロは、最初の契約の聖所で罪過のために献げられた血が、人類の罪のために献げられるキリスト『ご自身の血』をあらわし、その血によって、主は『永遠の贖いを成し遂げられた』と述べています(9:12)。実際、彼は、これら二つの章の中で、『ただ一度』(9:28)のキリストの死が、罪の問題に(犠牲制度との関連において)永遠に終止符を打ったので、キリストに結ばれた者は『聖なる者とされ』(10:10)、信仰によってキリストと共に、天の『聖所に入れると確信』(10:19)できるのだ、と言っています。

このように『ヘブライ人への手紙』は「カルバリー」を高め、さらに恵みの座にまで読者を伴います。そこで主は、アベルの血よりも力強く語ることが自身の血をもって父の前にとりなしをしておられます。この主を仰ぎつつ忍耐強く走り抜こうと勧めています。



われらの保証、イエス

●暗唱聖句●

「心はすすがれて良心のとがめを去り、からだは清い水で洗われ、まごころをもって信仰の確信に満たされつつ、みまえに近づこうではないか。また、約束をして下さったのは忠実な方であるから、わたしたちの告白する望みを、動くことなくしっかりと持ち続け」

(ヘブル 10 : 22、23、口語訳)

「心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか。約束してくださったのは真実な方なので、公に言い表した希望を揺るがぬようしっかりと保ちましょう」 (ヘブライ 10 : 22、23、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

9月6日

中心思想 『ヘブライ人への手紙』の受取人は、保証と確実性と確信を必要としていました。著者は、それらをどこに見いだすことができるかを彼らに示します。

たいていの人は自分の人生にある程度の確実性と保証を求めています。飛行機がどこにも異状がなく、十分整備され、パイロットの腕も確かであるという保証がなければ、だれもその飛行機には乗らないでしょう。医師の資格を持っているという保証がなければ、だれもその医者にかからないでしょう。当分は倒産しないという保証がなければ、だれもその会社に就職しないでしょう。人はみな、程度の差こそあれ、日常のあらゆる事柄において、ある程度の保証を必要としています。

人生の最も重要な問題である神との関係においては、なおさらそうです。

日曜日

キリストに連なる者

9月7日

新約聖書のほかの書巻と同様、『ヘブライ人への手紙』は神との関係について確信を与えてくれるものです。確信はこの手紙の重要なテーマです。それもそのはずです。結局のところ、私たちは罪人であって、毎日、自分自身の弱さや欠点と闘っているのです。救いと受容の確信がなければ、最後まで信仰を持ち続ける人などいないでしょう。

NOTE

問1 次の聖句はキリストにある救いの確信について何と教えていますか。

ヘブ 3 : 14 _____

ヘブ 6 : 18 _____

ヘブ 9 : 28 _____

問2 特に、私たちが「キリストに連なる者」(ヘブ 3 : 14)とされているという事実は、私たちの生き方をどのように変えますか。

イエスが「人々の罪を清められた」ゆえに(ヘブ 1 : 3)、また私たちのために「永遠の贖いを成し遂げられた」ゆえに(ヘブ 9 : 12)、私たちは、たとえ罪人であっても、神によって受け入れられます。このように、私たちが救いの確信を与えられているのは、自分自身の功績によるものではありません。むしろ、神が、御子、私たちの王、兄弟、いけにえ、大祭司なるイエス・キリストにおいて成し遂げてくださった御業のゆえです。

「クリスチャンは聖とされ、聖別され、完全な者とされ、清められ、浄化されている。これらの用語はみな聖所とその儀式に関連している。彼らは今でさえ神の民である。彼らはいま『清く』、いま神に近づくことができ、いま良心を清められており、いまイエスを天の大祭司として持つ」(ジョンソン 『絶対的確信をもって』 155 ページ)。

救いの確信がクリスチャンの人生において重要な意味を持つのはなぜですか。確信が推測に変わらないようにするためにはどんなことに留意したらよいですか。

NOTE

きのうは、キリストに連なる者とされた人たちに与えられている約束について学びました。これらの約束の大部分は、過去に関するものでした。キリストが今、私たちのためにしてくださっている働きに関して、聖書は何と言っているでしょうか。

問3 イエスは今日、御自分の子らのために何をしておられますか。

ヘブ 2 : 18 _____

ヘブ 4 : 15 _____

ヘブ 7 : 25 _____

過去になされたイエスの御業に関する聖句は、私たちの救いの様々な側面を描写しています。対照的に、今日の聖句は現在の生活における実際的な側面を含んでいます。もちろん、これもイエスの大祭司としての働きによるものです。

イエスは私たちのために執り成してください。彼は私たちに同情し、優しく扱ってください。私たちが人間として苦しむように、イエスも人間として苦しみました。このように、イエスは人間として、苦しみの中にある私たちに接してください。しかし、イエスは決して罪に屈服することがありませんでした。それゆえに、彼は私たちに罪に勝利する力をお与えになることができます。

私たちは確信と希望と平安を持つことができます。なぜなら、イエスが私たちの罪のために死に、罪の代価を払ってくださったこと、また今、私たちのために天で仕え、私たちの功績ではなく御自身の功績をもって父なる神に執り成しておられることを知っているからです。もっと確信について語りましょう。

しかし、だからと言って、私たちはこの世で全く苦しみに遭わないわけではありません。

ヘブライ 12 : 6 ~ 11を読んでください。著者はここで読者に何と勧めていますか。私たちが経験する苦しみに対して、著者はどんな理由をあげていますか。私たちは苦しみにどのように対処すべきですか。あなたはこのような苦しみを経験したことがありますか。

火曜日

その他の約束

9月9日

問4

『ヘブライ人への手紙』には、希望と約束で満ちた聖句がいくつも含まれています。次の聖句に与えられている約束はあなたにとってどんな意味を持ちますか。そこに含まれている希望はあなたの信仰をどのように強めてくれますか。

NOTE

ヘブ 4 : 3 _____

ヘブ 4 : 16 _____

ヘブ 8 : 10 ~ 12 _____

ヘブ 10 : 22 _____

ヘブ 12 : 28 _____

ヘブ 13 : 5、6 _____

ヘブライ 10 : 22 を注意深く読んでください。そこには「信頼しきって」と書かれています。それは、「絶対的な確信をもって」「完全に信頼して」という意味です。そこには、全くためらいがありません。私たちは、神の約束が必ず実現すると心から信じきって、神に近づくべきであると、使徒は言っています（23 節には、「約束してくださったのは真実な方なのですから」とあります）。私たちがこのように「信頼しきる」ことができるのはなぜでしょうか。その答えは前の 3 節にあります。すなわち、イエスが、ご自身の死によって新しい生きた道を私たちのために開いてくださったのです（ヘブ 10 : 19 ~ 21 参照）。

著者は「信頼しきる」ように強調する一方で、私たちが憶測に陥らないように何と勧告していますか（23 節参照）。この聖句（23 節）はこれらの約束を正しく理解する上でどんな助けになりますか。

NOTE

『ヘブライ人への手紙』においては、確信と保証の思想がやや異なった意味を持ついくつかのギリシア語を用いて表現されています。

- (1) “ プレーロフォリア ” —— 完全な信頼、信念、確実
- (2) “ パレーシア ” —— 大胆、確信、信頼
- (3) “ ヒュポスタシア ” —— 確信、信頼、信念
- (4) “ タレオー ” —— 勇気に満ちて、大胆に振舞う、確信する
- (5) “ アスファレース ” —— 安全、確実

問5 次の各聖句は「確信」について何と述べていますか。

ヘブ 3 : 14、10 : 35 _____

ヘブ 4 : 16、10 : 19 _____

ヘブ 6 : 11 _____

ヘブ 10 : 22、11 : 1 _____

これらの聖句は四つのグループに分類されます。第1のグループは、私たちが確信をもって神に近づくことができることを強調しています。私たちは天の聖所の恵みの御座に近づくことができます。私たちは洗い清められています。障壁は取り除かれています。恐れに代わって、確信が私たちの心を満たします。

第2のグループは確信と希望を一つに結びつけるもので、最後まで忠実に従い、約束のものを受けるまで忍耐するように勧めています。

第3のグループは確信と信仰を一つに結びつけています。私たちが、たとえまだ見ていなくても、キリストの現在と将来の御業に確信を抱くのは信仰によってです。信仰は希望、確信、信頼と切り離すことのできないものです。

最後のグループは、確信を堅持し、途中で捨てないように勧めています。

パウロは、私たちに希望と確信を持つように勧めています。しかし、私たちは毎日、それらを妨げるような問題に直面します。どうしたらこれらの問題に対処することができますか。

木曜日

信仰と確信

9月11日

『ヘブライ人への手紙』の中に、「信仰」「忠実」という語が(いろいろなかたちで)何度も出てきます。それはまとまって出てきます。最初の例は、イエスが「忠実な」大祭司と呼ばれている 2:17 です。次の 2 章は信仰について述べています。ほかにも 6 章と、信仰の勇者について語っている 10 章の終わりから 11 章をあげることができます。中でも、11 章は最も明瞭かつ組織的に信仰について教えています。

NOTE

問6 11章の最初の10節を読み、それらを10:19～23、35、38、39と比較してください。これらの聖句の要点は何ですか。それは『ヘブライ人への手紙』全体のテーマとどのように一致しますか。

『ヘブライ人への手紙』の中では、信仰と確信の思想は一つに結びついています。私たちは行いによってではなく、信仰によって救われます。したがって、信仰をもって主に従っている限り、私たちには信仰によって与えられる救いの確信があります。

興味深いことに、ヘブライ 4 章には、決断して、信じるようにという招きが含まれています。しかしながら、この手紙は非クリスチャンではなくクリスチャンに宛てられています。このように、『ヘブライ人への手紙』においては、信仰は単にイエス・キリストを救い主として受け入れる行為だけを指すものではありません。信仰は実際的なものです。それは私たちを確信と希望に導くと同時に、日ごとの生活にも影響を与えます。

一方、著者はヘブライ 10:35 で、確信を捨ててはならないと教えています。そのためにはどうしたらよいのでしょうか。信仰をもって忍耐することです。忍耐する人は約束されたもの(36節)すなわちイエスの再臨(37節)と最終的な救い(38、39節)にあずかります。

ヘブライ 3:15～19 を読んでください。不従順と不信仰がほとんど同じ意味で用いられています。なぜでしょうか。著者はここでだれの「不信仰」を非難していますか。それはキリストに従うと公言する私たちに何を教えていますか。

NOTE

信仰と保証は互いに関連があります。信仰によって私たちは、キリストの約束を把握します。それは私たちにさらにすぐれた希望を保証します。

「キリストの犠牲はクリスチャンに二つの大いなる事実を保証する。第1に、罪の問題を解決する御業がなされていることである。クリスチャンは罪から清められるために、半狂乱になり、もがき、努力し、背伸びし、飢え、渇き、悩み、説き伏せる必要がない。一度限りの一つの犠牲によって、神は罪を完全に解決された。私たちの行いはそれに何かを付け加えることも、それから何かを減らすこともできない。カルバリーは罪を取り除くことに関して絶対的な確信を与えてくれる。

第2に、カルバリーは私たちが完全に神の御前に近づくことができるという保証である。何者であろうとも、私たちはイエス・キリストのものである。神殿の門は広く開け放たれている。信じる者はみな、ためらうことなく、堂々と、そこに入ることができる」(ジョンソン『絶対的の確信をもって』118ページ)。

「私たちにはおいでになった救い主の保証がある。救い主は十字架につけられ、復活し、開かれたヨセフの墓の上で、『わたしは復活であり、命である』と宣言された。イエスとその愛を知る私たちにとって、神の国は私たちのうちに置かれている。……私たちは神の使者たちによって、キリストの義、信仰による義認、御言葉に与えられたこの上なく尊い神の約束、イエス・キリストによって父なる神に近づくこと、聖霊の慰め、神の国における永遠の命の約束という豊かな祝宴にあずかっている。大いなる晩餐、天の祝宴を準備するにあたって、神はほかに何がおできになったであろうか」(エレン・G・ホワイト『レビュー・アンド・ヘラルド』1899年1月17日)。

もっと深く学びたい方へ

『心、品性、人格』(英文)第2巻531ページ、『神の息子・娘たち』(英文)287ページ、ヘブライ11章を読んでください。

▽ミ/ニ/ガ/イ/ド▲

『ヘブライ人への手紙』の中のキリスト(8)——信仰の創始者 / 完成者
『ヘブライ人への手紙』は、第一義的には、すでに神との関係に入っている人々(クリスチャン)に対して与えられています。しかし、クリスチャンといえども、確信が弱り、希望を失いそうになることがあることを、この手紙は教えています。「忍耐」と「信仰」が強調されていることから、それがうかがえます。

「忍耐」という言葉には、元々、「自分の場所に固く立つ」という意味があります。困難や失望にすぐにめげない心の態度です。また「背後にとどまる」という意味もあります。勝機が訪れるまで、じっと待つ根気です。

昔、三育学院を卒業後、出版部のお手伝いをさせていただいていた時期に、短期間ですが北海道の旭川で働いたことがありました。冬のある朝、教会の前の花壇に積もった雪をシャベルで除いていたとき、ハッとしました。雪の下になんと緑の葉をつけ、赤い花を咲かせた植物が出てきたのです。その時の感動は今も忘れません。思わず、「しのびて春を待て、雪はとけて花は咲かん」という讚美歌 291 番が心に浮かんできました。

しかし、信仰者のこのような特質は、単なる頑張りによって身につくものではありません。それは、『御自身の前にある喜びを捨て、恥をもちとわなないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになった』お方を見上げることによって、見上げ続けることによってのみ与えられるものです(ヘブライ 12 : 2 下句)。

『ヘブライ人への手紙』が書かれた数年後に、エルサレム神殿は崩壊するのでした。人々が最も確実だと考えていたものが崩れ去ったのです。しかし、その時、彼らはパウロの勧告によって慰めを与えられたのです。

現代に住む私たちも不確実の時代、不確実の世界に生きています。だからこそ、確実なお方にしっかりと信仰のまなこを注いでいきたいものです。「自分に望みがあるのではなく、キリストに望みがある」(『キリストへの道』88、89 ページ)ことを覚え、「信仰の創始者であり、完成者であるイエスを見つめながら」忍耐強く信仰の戦いを走りぬきたいものです(ヘブ 12 : 2)。



第12課

9月20日

イエスとクリスチャンの歩み

●暗唱聖句●

「こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか」
(ヘブル12:1、口語訳)

「こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびたしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか」
(ヘブライ12:1、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

9月13日

中心思想 『ヘブライ人への手紙』は、天のことがらを扱う一方で、この世の事柄についても教えています。

ヴィクトリア女王がまだ幼少だった頃、自分がイギリスの王位を継承することを知りませんでした。王女の教育係たちは彼女を将来の役割に備えさせようと努めましたが、王女は真剣に勉強しようとはしませんでした。そこで教育係たちは、彼女がいつかイギリスの女王になると、はっきり教えることにしました。それを聞いた王女は静かに、「これからいい子にするわ」と言いました。王位を継承すると認識したときに、責任感が生まれ、それが王女の行動を大きく変えたのでした。

イエスは私たちのために最高の犠牲を払われました。そして今、天の聖所で私たちの大祭司として働いておられます。私たちは天国を約束されています。これらの素晴らしい真理は、私たちが高尚な召しにふさわしく生きる上で最高の動機となるものです。

日曜日

よそ者また仮住まいの者

9月14日

「この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでした。はるかにそれを見て喜びの声をあげ、自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表したのです」(ヘブ11:13)。

NOTE

問1 上記の聖句を文脈にそって注意深く読んでください。特に、忠実な者たちに対して用いられている「よそ者」と「仮住まいの者」〔英語欽定訳では「巡礼者」〕という言葉に注意してください。これらの言葉は何を連想させますか。クリスチャンはどんな意味で、地上において「よそ者」また「仮住まいの者」であるべきですか(ヨブ8:9、ヤコ4:14参照)。同時にどんな意味で、私たちは「よそ者」また「仮住まいの者」であってはならないでしょうか。

巡礼者とは、自分の家や国を離れて、旅に出る人のことです。彼らは一時的に、あるいは永久に、日常の活動、家族、友人から離れます。彼らは、罪からの清めという明らかな目的を持ち、その目的を達成するために進んで困難に耐えます。

しかしながら、巡礼という思想はしばしば行いによる救いにともなう最も苦しい経験を連想させます。『ヘブライ人への手紙』に教えられているのは、これとは異なる巡礼です。ここに教えられている巡礼者は救いを求めている人たちではありません。彼らはすでに救いにあずかっているのです。イエスは、「多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げ」(ヘブ9:28)、「永遠の贖い^{あがな}を成し遂げ」(12節)、そして「今やわたしたちのために神の御前に現れてくださった」のです(24節)。したがって、彼らの巡礼は救いを見いだすためのものではありません。彼らはすでに救われているので、主が行けと命じられたところには、どこであっても従うのです。

ヘブライ9:12、24～26、28を、この順序にしたがって読んでください。この順序から、キリストの御業に関してどんなことがわかりますか。行いによる救いの入り込む余地がありますか。

NOTE

問2 『ヘブライ人への手紙』が背信に対して強い態度を取っているのはなぜですか。次の聖句は背信に関して何と述べていますか。

ヘブ6:4～9 _____

ヘブ10:26～29 _____

ヘブ12:25 _____

これらの聖句において、使徒は多かれ少なかれ同じ問題について述べています。つまり、教会員の中には墮落して、再び悔い改めに立ち帰ることのない者たちが出てくるかもしれないということです。使徒は強い調子で、直接的・間接的に、キリストに従うように彼らに訴え、背信の危険性について警告しています。

ウィリアム・ジョンソンはこれらの聖句に共通する要素として次の五つの点をあげています。(1)特権、(2)違反、(3)結果、(4)裁き、(5)神の拒絶。『ヘブライ人への手紙』の著者は、「単なる徐々の背信や拒絶ではなく、福音に対する故意の拒絶について述べているように思われる。彼はこれらの聖句において最も厳しい警告を発している。それは新約聖書の中でも最も厳しいものである。……使徒は理不尽な拒絶について、また主イエスに対する明らかな反抗について描写している。ここには、怠慢や弱さによる罪の暗示はない。……『ヘブライ人への手紙』が熱情的な言葉で十字架を賞賛し、十字架の持つ最高の価値を強調していることを考えると、それが故意の拒絶の恐ろしさを指摘しているとしても不思議ではない」(ジョンソン『絶対的確信をもって』143, 145～148ページ)。

ヘブライ6:4～6は重要な問題を提起します。というのは、ひとたび神の救いの力と素晴らしさを知りながら、その後に墮落した人は再び救われることはない、これらの聖句が教えているように思われるからです。このことは、たとえばルカ15:11～32にある放蕩息子のたとえや、背信者に悔い改めを求めるその他の多くの聖句に照らして、どのように解釈したらよいでしょうか。

主は聖書の中で繰り返し、背信した人々に御自分に立ち帰るように訴えておられます。主は彼らが、背信から立ち帰るのを熱望しておられます。

火曜日

クリスチャンと社会

9月16日

NOTE

『ヘブライ人への手紙』はキリストと天の聖所におけるキリストの働きに焦点を当てています。しかし、このことには人間的な要素も含まれます。また、そうでなければなりません。

私たちがキリストの死と大祭司としての働きを通して与えられている確信と希望と約束は、必然的に、私たちの生き方、毎日の人間関係に影響を与えるものです。『ヘブライ人への手紙』は高度に神学的で、文字通り天上の事柄を扱ってはいますが、それはまた11章に描かれているように、信仰生活を送っている人たちの品性と生活にもかかわりがあります。事実、11章に描かれている信仰者の記録を見れば、信仰がどれほど個人の行動に大きな影響を与えるかがわかります。

問3 ヘブライ 12:14、13:1～5、16、17 を読んでください。使徒は何と勧めていますか。どのような人間関係について語っていますか。

ヘブライ 12:14 と、山上の説教に見られるキリストの言葉との共通点に留意してください。マタイ 5:9 によれば、クリスチャンは争いや戦いを避けるだけでなく、平和を実現するために積極的に働くべきです。このようにして、私たちは社会に奉仕し、社会を改善するために働くことができます。私たちは社会とかかわりを持つ必要があります。私たちはこの世にあって、よそ者であり、仮住まいの者ですが、それでもなおこの世にあって自分の足跡を残し、光を輝かす必要があります。

使徒はまた、もてなしについて教えています。これは信仰仲間に限られたことではありません。クリスチャンは社会から取り残された人々、見捨てられた人々、虐待されている人々を援助すべきです。イエスも地上でそのようにされました。

ヘブライ 13:16 を読んでください。「施し」と訳されているギリシア語は「交わり」「親密な関係」「分かち合い」を意味します。著者はこれを「いけにえ」と呼んでいます。この言葉は何を連想させますか。それは私たちにどんな「犠牲」を要求しますか。

NOTE

「ある人たちの習慣に倣^{なら}って集会を怠^{おこた}ったりせず、むしろ励まし合いましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか」(ヘブ10:25)。

ヘブライ10:19～25は、天におけるイエスの働きが地上にまで影響を及ぼすことを教えています。思想の流れを見てみましょう。

まず、19～21節で、天におけるイエスと、イエスの御業のおかげで私たちが天の父に「近づく」ことができるようになったことが強調されています。

第2に、キリストの御業の結果として、心が変えられます。イエスによる約束と希望が与えられているからです(22、23節)。

最後に、イエスのゆえに、私たちの生き方は変わります。私たちは人々に仕え、キリストにおいて与えられているものを証しするようになります(24、25節)。

このように、著者の関心は天におけるキリストから地上におけるクリスチャンの共同体へと移っています。

問4 次の各聖句はクリスチャンの共同体についてどんなことを教えていますか。

ヘブ13:1～3 _____

ヘブ13:7、17 _____

ヘブ13:18 _____

キリスト教会は一つの家族のようなものです。新約聖書の時代においてはすでに、クリスチャンは互いに兄弟・姉妹と呼び合っていました。彼らは「神の家族」でした(エフェ2:19)。家族は互いに思いやり、励まし合い、時には成長を促すために互いに批判し合います。

迫害や離散といった特別な場合を除けば、だれも孤立した状態でクリスチャンであることはできません。イエスが教会を建てられたのは、私たちがだれかと交わり、友情を育み、霊的賜物を養い、共に再臨の主にお会いするためです。

木曜日

結婚と金銭

9月18日

「結婚はすべての人に尊ばれるべきであり、夫婦の関係は汚してはなりません。神は、みだらな者や姦淫^{かんいん}する者を裁かれるのです。金銭に執着しない生活をし、今持っているもので満足しなさい。神御自身、『わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない』と言われました」(ヘブ13:4、5)。

NOTE

問5 ヘブライ 13:4 は何について教えていますか。

ここで、使徒は結婚の重要性和神聖さを強調し、性欲の誤用について警告しています。「この制度に関する神の原則を認めてそれを守るとき、結婚は祝福となる。それは人類の純潔と幸福を保護し、その社会的な必要を満たし、身体的、精神的、道徳的性質を向上させる」(『アドベンチスト・ホーム』16ページ)。

「みだらな者」と「姦淫する者」は異なる人たちをさしているように思われます。姦淫する者は配偶者以外の人と性的関係を持つ既婚者をさし、みだらな者はほかの人と性的関係を持つ未婚者をさしているように思われます。

問6 もう一つの誘惑はお金です。使徒はヘブライ 13:5 で金銭と財産の問題に関してどんな重要な勧告を与えていますか。それは金銭の誘惑からどのように守ってくれますか。

金銭に執着すると、人はとんでもないことをしでかします。よくよく警戒していないと、クリスチャンといえどもイエスの言われた「富の誘惑」(マコ4:19)に飲み込まれてしまいます。

ある兄弟がイエスに遺産をめぐる争いの仲裁を頼んだ時、イエスは「どんな貪欲^{どんよく}にも注意を払うように」と言われました(ルカ12:15参照)。これらの言葉には特に注意を払うべきです。自分の持ち物によって人生の価値や質を評価しがちだからです。

ヘブライ 13:5 の終わりにある約束は、試練と誘惑に満ちた私たちの人生に、どんな力を与えてくれますか。

NOTE

この地上は、私たちの最終的な目的地ではありませんが、私たちの今現在の生活の場です。そして神は、私たちがこの地上の人生において、イエス・キリストにあって与えられている高い召しにしたがって生きるように期待しておられます。

『フィリピの信徒への手紙』に記されたパウロの生涯について学び、彼の生き方と教えが今週のテーマとどのように調和するか考えてください。

古代マケドニアのアレクサンダー大王の軍隊に、同じくアレクサンダーという名の男がいました。この男が小心な行為をとがめられ、王の前に引き出されてきました。王は男の名前を尋ねました。男は小さな声で、「アレクサンダー……と申します」と答えました。王は言いました。「聞こえないぞ」。男は少し大きな声で、「アレクサンダー……でございます」と答えました。同じことがもう一度繰り返された後で、アレクサンダー大王は言いました。「お前の名前を変えるか、お前の態度を変えるか、どちらかにせよ！」。

「この世においてキリストの救いにあずかった者たち、天において御国の栄光にあずかりたいと願う者たちはみな、キリストに協力しなければならない。各自は自分自身の救いと他人に及ぼす影響に対して責任を負う。もし彼らがクリスチャンとして歩み続けるなら、イエスは彼らのうちで栄光の望みとなり、彼らは喜んでイエスを賛美するようになる。……主の目的は彼らにとって身近で、尊いものとなる。主の目的を推進し、清い生き方によってそれを尊ぶことが彼らの研究事項となる。天使は言った。『神はすべてのタラントに利息を要求される』。すべてのクリスチャンはますます力をつけ、すべての能力を神の目的のために用いなければならない」(『教会へのあかし』第1巻179ページ)。

▽ミ/ニ/ガ/イ/ド△

クリスチャンの共同体へのメッセージ

『忍耐』と共に、『ヘブライ人への手紙』の底を流れるもう一つのメッセージは、「互いに励ましあいなさい」「愛し合いなさい」「思いやりなさい」ということです。

最終時代の神の民に与えられた次の勧告は、常に最大のチャレンジであり、私たちの心に期待と痛みを与えます。「人の心をとるまく環境の中で無私の生活の感化ほど力のあるものはない。福音に対して好感をいだかせる最も強いあかしは、愛し愛されるクリスチャンである」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング』454 ページ、強調付加)。

昨年、教会の半世紀の歴史をまとめた記念誌を発行し、年頭に全国の教会にもお届けすることができました。記念誌の編集の過程で、お会いしたことのない教会員に連絡する機会がありました。その多くは、現在、出席しておられる信徒の皆さんに聞いても消息がわからない方々です。「あの人は、もう来る気はない」との声も聞こえてきました。そんな中で、ある長欠者の方に連絡したところ、「長い間休んでいる私のことを覚えてくださってありがとうございます」とのお返事が返ってきました。それに勇気づけられて、名簿から追跡しうるすべての方々に連絡しました。

ある方のお宅に電話するとお孫さんが出てきて、「ばあちゃんなら病院にはいっている」とのこと、病院名を聞いて家内と一緒に訪問しました。病棟婦長の方が、「あの方は何もわかりませんよ」と言われましたが、とにかく訪室してみました。鼻から栄養剤が注入されていました。一目でご高齢で、大層衰弱しておられることがわかり、持参したお花を飾り、メッセージを残して帰ろうとしたのですが、病院での働きの経験から聴覚が最後まで残ることを思い出し、「Ｙさん！」と少し大きな声で語りかけますと、目を開けられました。目の焦点は定まらず、空を追う状態でしたが、耳元でお祈りし、語りかけますと、声を出され、何かを一生懸命に訴えておられるのがわかりました。

この経験は私にとって大きいものでした。「長欠者」の烙印^{らくいん}を押しているのは自分達ではないか、と猛省し、新年を機に、行動を開始しました。「背信」と言う前に教会になすべきことがあることを強く教えられました。



第13課

9月27日

イエスと私たちの将来

●暗唱聖句●

「この地上には、永遠の都はない。きたらんとする都こそ、わたしたちの求めているものである」
(ヘブル13:14、口語訳)

「わたしたちはこの地上に永続する都を持っておらず、来るべき都を探し求めているのです」
(ヘブライ13:14、新共同訳)

安息日午後

今週のテーマ

9月20日

中心思想 クリスマンが、現在この世界で、神の民であることの特権をどれほど享受し楽しんでいても、彼らの究極の希望は、すべての約束が最終的に実現するキリストの再臨にあります。

『ヘブライ人への手紙』が、たとえば地上の聖所の務めやキリストの死といった過去の出来事についてどれほど詳しく述べていようと、もしそこで終わっていたなら完全とは言えません。それゆえに、著者は、将来の出来事、特に救いの計画の頂点となるイエスの再臨に目を向けます。イエスの再臨がなければ、クリスマンの希望は空しいものです。「希望」という言葉がこの手紙に5回使われているのはそのためでしょう。クリスマンにとって、この希望とは新天地で神と共に永遠に住むことです。それは、神の民がエデンにおける人類の墮落と最初の救いの約束以来、熱心に待ち望んできたものです。

今週の研究 今週の研究の中で、次のことを考えてみましょう。なぜ『ヘブライ人への手紙』の著者は、彼が終わりの時代に生きていると言っているのでしょうか。聖書が救いを現在の現実として語りながら、同時に、将来の希望としている理由は何でしょうか。聖所は、イエスの再臨とどのようなつながりがあるのでしょうか。

日曜日

終わりの時

9月21日

問1 ヘブライ1:2、9:26を読んでください。紀元1世紀が終わらないうちに「終わりの時代」「世の終わり」と言っていますが、このことは何を意味しますか。

NOTE

キリストの初臨は画期的な出来事でした。イエスの働きによって、全く新しい霊的秩序が始まりました。イエスは罪と苦しみを完全に終わらせるために自ら苦しみ、死なねばなりません。最高の犠牲が払われました。罪の代価が支払われました。イエスの一度限りの犠牲によって、救いが確実なものとなりました。新天地が実現する前に、これらのことがなされねばなりません。このような意味において、使徒は自分の時代を「世の終わり」と呼んだのです。たとえ再臨が何世紀も後のことになろうとも、です。

問2 ペトロ1:18～20を読んでください。ペトロがイエスの死を「終わりの時代」と結びつけていることに注目してください。

『ヘブライ人への手紙』の著者が読者に知らせたかったことは、古いものが終わり、新しい何か、より良い何かが、イエスによって始まったということでした。つまり、読者が特定の時代にいうよりも、むしろ読者が新しい霊的時代にいるということです。

「キリストの初臨によって、新しい時代が始まった、あるいは古い時代と重なった。これら二つの時代は、古い時代が完全に終わる再臨の時まで並行して存続し続ける。したがって、クリスチャンは同時に二つの世界に生きることになる。……イエスは一つの文章に二つの思想を結合することさえおできになった。『はっきり言うておく。死んだ者が神の子の声を聞く時が来る。今やその時である』(ヨハ5:25)」「ジョン・ポーリエン『聖書の終末論』77、78ページ、1994年」

私たちはよく「終わりの時代」に住んでいると言います。今日の研究で学んだ聖句は、このことを正しく理解するうえでどんな助けになりますか。

NOTE

新約聖書、とりわけパウロの書簡には、「すでに」と「まだ」の思想、つまり「私たちはすでに救われているが、まだ最終的には救われていない」という思想が見られます。たとえば、ローマ8:23、24には次のようにあります。「体の贖^{あがな}われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。わたしたちは、このような希望によって救われているのです」。キリストを信じる信仰によって、私たちはすでに救われ、今も永遠の命にあずかっています。しかしながら、最終的な救いはまだ先のことです(ヨハネ5:24、マタイ19:29も参照)。

問3 この「すでに」と「まだ」の対立概念は『ヘブライ人への手紙』の中でどのようなかたちで出てきますか。それはどのように理解すべきですか。

ヘブ12:28 _____

ヘブ11:13～16 _____

聖書にはいろいろな対立概念が出てきますが、それらはどれも正しく理解するなら互いに調和するものです。問題は、一つの側面だけを見て、ほかの側面を見ないことにあります。

たとえば、イエスは地上におられたとき、完全に神であり、完全に人でした。聖書は人間によって書かれましたが、神の言葉です。神は時間を超越したお方ですが、時間の中で人間と接しられます。私たちは信仰によって救われ、行いによって裁かれます。

人間の頭脳で神と救いの計画を完全に理解することはできません。互いに対立する概念が見つかったときには、それを矛盾と考えるのではなく、より大きな全体の別の側面と考えるべきです。

ヨハネ3:15、36、 テモテ6:12、 ヨハネ5:12、13を読んでください。これらの聖句は、私たちがいま永遠の命を受けていることを強調しています。実際に永遠の命を受けるのはキリストの再臨においてですが、これらの約束はそれまでの間、私たちにどんな慰めと確信を与えてくれますか。いま永遠の命を受けているとしたら、私たちはどのように生きるべきですか。

火曜日

将来の出来事

9月23日

「ところが実際は、彼らは更にまさった故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです。だから、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさしません。神は、彼らのために都を準備されていたからです」(ヘブ11:16)。

NOTE

終わりの時代について、また「すでに」と「まだ」について研究するなら、イエスが終わりの中心であることがわかります。「新約聖書を正しく理解するなら、イエス・キリストが終わりそのものであることがわかる」(ポーリエン、81ページ)。

問4 『ヘブライ人への手紙』は将来のどんな出来事について記していますか。

ヘブ9:28、10:37 _____

ヘブ9:27、10:27、30 _____

ヘブ11:26 _____

使徒はキリストの再臨、死者の復活、裁きに言及していますが、『ヘブライ人への手紙』にも聖書のどの書簡にも、その予定表は載っていません。終末の諸事件がいつ起こるかを知ることよりも、清い生活を送ることの方がより重要だからです。聖書がキリストの再臨に備えるように教えているのはそのためです。

『ヘブライ人への手紙』には、将来の裁きがしばしば出てきます。ヘブライ10:27の「審判」は、いわゆる「執行審判」をさしていると考えられます。焼き尽くす火のことが書かれているからです(黙20:9、10参照)。それがいつ、どのようなかたちで起こるかについては書かれていませんが、はっきりしていることがいくつかあります。

1. 神は審判者となられる(ヘブ12:23)。
2. 神は報復される(ヘブ10:30)。
3. 神は御自分の民に報いられる(ヘブ11:26)。

パウロは、キリストの死と天における大祭司としての働きを強調していますが、同時に終わりの裁き、再臨、死者の復活、最後の報いも強調しています。

NOTE

問5 次の聖句は天の都について述べています。それらの共通点と相違点は何ですか。

ヘブ 11 : 10 ~ 16 _____

ヘブ 12 : 18 ~ 24 _____

ヘブ 13 : 12 ~ 14 _____

新約時代のクリスチャンと同様、旧約の信者も天の都への道を歩んでいます。ヘブライ 11 : 10 ~ 16 には、真の故郷、天の祖国、神の都に向かって巡礼の旅をするアブラハムと族長たちの姿が描かれています。神の民はみな、もし最後まで耐え忍ぶなら、同じ目的地に到達します。これが『ヘブライ人への手紙』の中心テーマです——あきらめてはなりません！

ヘブライ 12 : 18 ~ 24 は新しい契約の共同体を描写しています。興味深いことに、ここにはシナイ山の燃える火、暗闇、暴風、恐怖がシオンの山、天のエルサレムと対比されています。ここでも、著者は詩的で力強い言葉を用いて、古い生き方と新しい生き方とを対比し、読者がイエスのおかげで旧約時代の人たちよりも優れた真理の啓示を与えられていることを明らかにしています。事実、彼らがすでに神の都に到達したものとして描かれています。「新しい契約の民は……すでに天のエルサレムの入口に到着し、……自分たちが受けようとしている『揺り動かされることのない御国』(ヘブ 12 : 28) の啓示をただ待っているだけである」(W.L. レイン『ヘブライ人への手紙 9 ~ 13 章』466、470 ページ、1991 年)。

ヘブライ 13 : 12 ~ 14 は、イエスが追放された地上のエルサレムと「来るべき」将来の都、神の忠実な民に約束されている都とを対比しています。

ヘブライ 13 : 14 を読んでください。著者はここで「永続する都」と言っていますが、これは何を意味しますか。私たちが地上にそのような都を持たないのはなぜですか。私たちの生き方は、地上に永続する都を持たない者としての生き方にふさわしいものですか。ひょっとして、この世が永続する都であるかのように生きてはいませんか(マタ 6 : 19 ~ 21 参照)。

木曜日

聖所と再臨

9月25日

NOTE

今期、これまで学んできたように、『ヘブライ人への手紙』は地上の聖所の務めと切り離して理解することができません。事実、ユダヤ人の犠牲制度を理解することなしには、救いの計画、特に罪に対する身代わりの死としてのキリストの死を理解することは困難です。救いの計画全体が旧約の聖所において啓示された思想と象徴にもとづいて組み立てられているからです。これらの思想と象徴はキリストにおいて実現します。

私たちはまた、この手紙が過去（キリストの死）と現在（天におけるキリストの働き）について記している一方で、将来、つまり再臨と再臨にかかわる事柄に目を向けていることについても学びました。

このように、著者は再臨を聖所と結びつけています。もし聖所が救いをさし示し、救いが再臨において完成するとすれば、必然的に聖所は再臨と結びついていなければなりません。聖所を再臨と切り離すことは論理的に無理というものです。再臨を信じる私たちアドベンチストが聖所のメッセージを世に宣べ伝えるのはそのためです。

問6 次の聖句において、『ヘブライ人への手紙』の著者は聖所と再臨とをどのように結びつけていますか。

ヘブ 9 : 24 ~ 28 _____

ヘブ 10 : 11 ~ 13 _____

ヘブ 12 : 22 ~ 24 _____

キリストの再臨は、キリストが十字架上で成し遂げられたことと、大祭司として天の聖所でしておられることが完成するときです。したがって、キリストの死と大祭司としての働きは、再臨がなければ何の意味もありません。

最終的に救いが実現するのは、イエスが来られて、御自分の民をシオンの山、天のエルサレムに連れて行かれるときです。彼らはそこで神と共に暮らします。聖所についての教えと終末の出来事についての教えは一つであって、切り離すことのできないものです。

NOTE

私たちはこの世界にあって、よそ者、また仮住まいの者として生きながらも、なお、最終的な目的地である天の都に向かって前進しています。私たちは、まもなく、神と顔と顔を合わせて相まみえるのです。

「私たちは家路にある。私たちのために死ぬほどに、私たちを愛してくださったお方は、私たちのために都をお建てになった。新エルサレムは私たちの安息の場所である。神の都には、悲しみはない。悲しみの叫び声、砕かれた希望と裏切られた愛の挽歌は永久に聞かれることがない。まもなく、苦しみの衣服は婚礼の衣服に変えられる。まもなく、私たちの王の戴冠式を見る。その命をキリストと共に神の内に隠された人たち、この世において信仰の戦いを立派に戦い抜いた人たちは、神の国において贖い主の栄光をもって輝くであろう。

永遠の命の希望の中心であるお方にお会いする日は、そう遠くはない。このお方の御前にあっては、この世のどんな試練や苦しみも無に等しい。『だから、自分の確信を捨ててはいけません。この確信には大きな報いがあります。神の御心を行って約束されたものを受けるためには、忍耐が必要なのです。『もう少しすると、来るべき方がおいでになる。遅れられることはない』(ヘブ10:35～37)。見上げなさい。見上げなさい。あなたの信仰を絶えず増し加えなさい。この信仰を細い道の導き手として、神の都の門を通り、贖われた者たちのために用意された、はるかかなたの、栄光に満ちた、広く無限の未来に向かって歩みなさい』(『教会へのあかし』第9巻287, 288ページ)。

もっと深く学びたい方へ

ヤコブ5:1～11、黙示録22:6～21を読み、これらの聖句に記された義務と約束、また輝かしい希望について考えてください。(『終末の諸事件』(英文)283～287、297、298、304～306ページも参照してください)

▽ミ/ニ/ガ/イ/ド▲

『ヘブライ人への手紙』が与えるチャレンジ

(1) 天国を先取りする

パウロがユダヤ人クリスチャンに与えたチャレンジは、彼らの思考と生活を、古い秩序から新しい秩序ヘシフト(移行)させることでした。型と儀式的の制度がどのようにして実体であるキリストにおいて成就したかを丹念に示したあとで、パウロは、いよいよ、具体的例証にはいります。それが、11章です。

ヘブライ11章の中で、パウロは、ユダヤ人クリスチャンにとって大きな尊敬の対象である聖徒を列挙します。アベルから始まるこのいわば「聖人列伝」を通して、これらの人々が古い秩序の時代に生きながら、すでに新しい秩序を「先取り」していたとパウロは言います。これは強力な説得力を持っていたに違いありません。その中心となるメッセージが11:13～16のみ言葉です。

この手紙が書かれた時代よりも、もっと御国の到来が近づいている時代に生きる私たちにとって、毎週の安息日が、神の国の先取りの経験となるように、毎度の聖餐式が、天での晩餐の先取りとなるよう求めてまいりましょう。

(2) イエスの辱めを担い宿営の外に出る

ガイドに強調されている再臨待望の実現は、私たちの行動なくしてはありえません。ヘブライ13:12、13から与えられる霊的教訓は、そのことを教えているように思えます。

これと関連して、最後にパウロは、「指導者」について二度触れていきます(13:7, 17)。彼の度重なる強調は、聴衆の注目と喚起を促す手法です。

かつてある方が韓国のSDAの人に、日本伝道が(韓国に比べて)なぜ振るわないかを尋ねた時、「聖なる日(安息日)と聖なるもの(什一)と聖なる人(牧師・伝道者)を敬うことです」と答えられたという話を聞いたことがあります。もちろんそれだけが伝道不振の原因ではないでしょう。しかし、考えさせられる言葉ではありませんか。指導者にも足りないところは多くあるかもしれませんが、神様に立てられた器として尊敬し、みわざのために心を合わせて働く時に、大きな祝福が与えられると信じます。



- * お話（全部で17話）
聖書物語編
ベッドタイムストーリーズ編
* 挿入曲4曲

鴨田のおじさんのお話

C D 2 枚組

定価（本体 1,500 円 + 税）

児童伝道部・預言の声発行

復刻版

昔、子どもだったあなたに、
そして、あなたの大切な子どもたちに。
おぼえていますか？
あの感動が帰ってきました！
大切なものはいつまでも残し続けたい。
そんな気持ちが復刻版につながりました。

こひつじのうた

A 4 判 116 ページ

定価（本体 1,500 円 + 税）

児童伝道部・福音社発行

おまたせいたしました！

17年ぶりに改訂がなされました。

旧「こひつじのうた」を中心に、LL歌集を加え、全部で50曲をセレクト。特に家庭礼拝で使用できるように作成されています。歌詞も、より福音的になって、楽しく歌えるようになって

おります。本を見開きにした状態で、子どもたちと一緒に歌うことができるように、左ページに楽譜、右ページにひらがなで歌詞がついています。また、カラオケCDが付属していますので、ピアノが弾けない方に朗報です。



ホワイト選集 全11巻

エレン・G・ホワイト著

A 5 判

全巻セット信徒価格

(本体 32,816 円 + 税)



国際化時代を生きる
現代人のための
最も定評のある聖書物語

人類のあけぼの(上・下巻)

国と指導者(上・下巻)

各時代の希望(上・中・下巻)

艱難から栄光へ(上・下巻)

各時代の大争闘(上・下巻)

エレン・G・ホワイト名言集 光シリーズ

Assurance

—主にある「確信」—

Comfort

—主による「なぐさめ」—

エレン・G・ホワイト著

A 5 変型判 96 ページ / 定価各 (本体 2,400 円 + 税)

福音社発行



力一杯努めているのに、じっと耐えているのに、周囲が暗く冷たく空虚に感じられ、思わずため息と涙があふれることはありませんか。人生のそのような時に、励ましの言葉と美しい自然の写真のこの本は、天の神様からのやさしい「なぐさめ」と力強い「確信」があなたのすぐそばに満ち満ちていることを教えてくれるでしょう。神様がこんなにもあなたを愛しておられるその事実に出会うのがこの本です。お友達にも分けてあげたくなる、プレゼントに最適の本です。

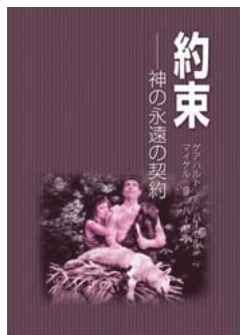
聖書研究ガイドを深く学ぶための副読本 !!

約束——神の永遠の契約

ゲアハルト・ハーゼル 共著
マイケル・ハーゼル

A5 判 108 ページ / 定価 (本体 900 円 + 税)

安息日学校部企画 / 福音社編集部編訳
福音社発行



2003年第1期「聖書研究ガイド」の副読本です。この本は聖書の契約の意味について詳しくまとめられています。ガイドの副読本のみならず、契約についての参考書として読む価値は充分あります。この本を通し「救いにおける人に課せられた働き」「クリスチアンの信仰の基盤」「神を喜ばせるために何をすべきか」などが学べます。



神の赦しの賜物

ラリー・イエグリー著 / 伊能忠嗣訳

A5 判 128 ページ / 定価 (本体 900 円 + 税)

安息日学校部企画 / 福音社編集部編
福音社発行

2003年第2期「聖書研究ガイド」の副読本です。神の赦しについて、感動的な証と例話を中心にわかりやすく物語ふう書き下ろされた最適の書です。翻訳はこの度、アンドリュース大学神学院で新約聖書学の博士号を取得されました伊能忠嗣牧師が日本の皆さんのために、心を込めて翻訳してくだしました。ぜひお求め下さい。

* 好評発売中 *

第3期「大胆に御座に近づこう」(著者/エクハルト・ミューラー)

今期の副読本です。イエス・キリストの十字架と、私達の救いに関する真理を、ヘブライ人への手紙の重要なテーマである「聖所」から学びます。ぜひご利用下さい。

* ご注文はA B C まで *

2003 年第 4 期研究予告

総題 「ヨナ書」

第 1 課 聖書の預言者と現代の批評家

日 預言者の伝記

月 「主の言葉が……」

火 歴史的な手がかり

水 ヨナ書の奇跡 (1)

木 ヨナ書の奇跡 (2)

(著者) ジョアン・デイヴィッドソン

(アンドリュース大学神学院神学助教授)

◆安息日学校聖書研究ガイド予定のご案内◆

* 2004 年度

第 1 期 ヨハネ——最も愛された福音書

第 2 期 イザヤ——わが民を慰めよ

第 3 期 関係における宗教

第 4 期 ダニエル書

下記のホームページで、週ごとに聖書研究ガイドを公開しています。
海外にご出張や留学中の方など、日本語の聖書研究ガイドが手に入らない
方、また、インターネットで聖書研究ガイドを学びたい方に、特にお勧め
いたします。 www.sda.or.jp/ssguide/

2003 年度 日没表

月 / 日	札幌	仙台	東京	名古屋	大阪	広島	福岡	鹿児島	沖縄
7 / 4	7 : 17	7 : 03	7 : 00	7 : 10	7 : 15	7 : 26	7 : 32	7 : 27	7 : 26
11	7 : 14	7 : 01	6 : 59	7 : 09	7 : 14	7 : 25	7 : 31	7 : 26	7 : 25
18	7 : 10	6 : 58	6 : 56	7 : 06	7 : 11	7 : 22	7 : 28	7 : 23	7 : 23
25	7 : 04	6 : 53	6 : 51	7 : 01	7 : 06	7 : 17	7 : 24	7 : 17	7 : 20
8 / 1	6 : 57	6 : 47	6 : 46	6 : 56	7 : 01	7 : 12	7 : 19	7 : 14	7 : 16
8	6 : 48	6 : 40	6 : 39	6 : 50	6 : 55	7 : 06	7 : 13	7 : 09	7 : 11
15	6 : 39	6 : 31	6 : 31	6 : 42	6 : 48	6 : 58	7 : 05	7 : 02	7 : 05
22	6 : 28	6 : 22	6 : 24	6 : 34	6 : 39	6 : 50	6 : 57	6 : 55	7 : 00
29	6 : 17	6 : 12	6 : 14	6 : 25	6 : 30	6 : 42	6 : 49	6 : 47	6 : 53
9 / 5	6 : 04	6 : 01	6 : 04	6 : 15	6 : 20	6 : 32	6 : 40	6 : 38	6 : 46
12	5 : 52	5 : 51	5 : 54	6 : 05	6 : 10	6 : 22	6 : 30	6 : 29	6 : 39
19	5 : 39	5 : 40	5 : 44	5 : 55	6 : 01	6 : 13	6 : 21	6 : 20	6 : 31
26	5 : 27	5 : 29	5 : 34	5 : 45	5 : 51	6 : 03	6 : 11	6 : 11	6 : 22

安息日学校聖書研究ガイド **聖所のテーマ** (『ヘブライ人への手紙』)

定 価 460 円 (本体 439 円 + 税)

発 行 日 2003 年 6 月 25 日

原 作 版 発 行 セブンスデー・アドベンチスト
世界総会安息日学校・信徒伝道部

日本語版発行 教団安息日学校・信徒伝道部
〒190-0011 立川市高松町3-21-8

無断転載を禁じます

東中央アフリカ支部

